

Takayoshi Yada

Archives



	年度	年度
神鋼設計クラブ寄せ書き	1973年	S.45
ボーリング成績表	1975年	S.50
米穀通帳	1969年	S.44
兵庫都市対抗神戸予選 神鋼	1964年	S.39
神鋼野球大会	1964年	S.39
大隈さん歌	1968年	S.43
GPSSマニュアル	1970年	S.45
神鋼システム部門概況書	1991年	H.03
神鋼特許管理システム	1980年	S.55
神鋼システム部門情報交流会	1993年	H.5
神鋼関係会社システム実態調査	1991-1994	H.3-H6
北海道旅行	1966年	S.41
賞状	1951-1959	S.26-S.37
通知表	1951-1962	S.26-S.38
サイン帳	1959年	S.34
PRIDEマニュアル	1982年	S.57
KT法マニュアル	1983年	S.58
高校修学旅行	1960年	S.35

ゴールデンボウル加古川

☎ 0794 (23) 5355 (代)

	NAME	HDCP	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	TOTAL
1	隆是		16 7	7 27	9 47	9 67	8 87	35 100	63 108	8 117	8 135	8 143	143
2	喜子		18 9	7 16	7 23	5 31	3 40	8 48	1 65	9 72	8 80	7 87	87
3	隆是		16 7	5 16	4 36	9 53	7 73	8 92	7 101	9 110	6 127	7 134	134 277
4	喜子		9 7	7 16	7 25	9 34	1 52	8 60	7 67	7 75	9 84	3 104	104 191
5	喜子		9 20	9 33	3 36	8 44	1 62	8 70	9 79	7 88	9 106	6 114	114 305
6	隆是		8 9	1 16	1 35	9 52	7 61	2 80	9 89	9 108	9 118	8 125	125 402
7	隆是		9 30	9 57	9 77	7 93	6 109	6 129	9 158	9 178	9 198	6 214	214 616
8	喜子		6 7	9 16	9 25	9 41	1 47	5 65	8 84	6 104	6 124	7 144	87 392
9	喜												484
10	Pi												774
11													

● ルールとエチケットを守ってボウリングをお楽しみください。
 ● 当ボウリングセンターでは、練習ボールは認めておりません。
 ● 投球用意OKのランプがついてから投げてください。
 ● 貴重品、お持ち帰り品にご注意下さい。
 ● ご不明、お気付きの点がござ

加古川市に在住したのは1972年6月～1978年3月
 ボーリングで200点を越えた数少ない経験

1975年 S.50

家族ぐるみで楽しめるボウリング場



大日ボウリング



加古川市野口町水足333 TEL (加)23-2127(代)

練習ボールは認めておりません

	NAME	HDCP	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	TOTAL
1	降島		6		4 6	7 2 3		6		8		7 2	155
			20	36	42	51	67	87	107	127	146	155	
2	高橋		9 -	8 -	9 8	7 2 3	2 6	6 2	4 7	8 -	8		
			9	17	25	34	39	55	63	70	78	86	
3	T		9 -	7	8	7				9		6	
			9	27	44	64	94	123	143	163	183	203	
4	K		7 -	9 7	9 9	それが残っていた		- 9	9 8	6 2 9			
			7	14	23	32	40	49	59	67	75	84	
5	T		7 1	7 2	7 2				9	8	7	8	
			8	17	26	56	85	105	123	140	158	178	
6	T		7 2	6 2	3 6		6 2	9 2 9	8	5 4			
			9	17	26	44	52	61	79	94	103	133	
7													

加古川市に在住したのは1972年6月～1978年3月

ボウリングで200点を越えた数少ない経験

1975年

S.50

10

11

一般用米穀類購入通帳

昭和44年11月1日から
昭和45年11月30日まで有効

No. 農 46 林 省

都道府県 **兵庫県伊丹市** 市区町村 **伏見町** 昭和 **46.4.7** 日交付

世帯主 住所 **伊丹市伏見町6丁目7-2** 市区町村長名印 **伊丹市長伏見正慶**

氏名 **矢田 隆是**

年月別 **3/10/16**

世帯員(世帯主を含む) **2**

基本配給 **2.5**

希望配給 **通常消費する希望数量**

市区町村長印 **伊丹市長伏見正慶**

昔は米の通帳というものがあった。
一家に一つ、米の配給制
1942年4月～1981年6月まであったとのこと

一般用米穀類購入通帳

昭和44年11月1日から
昭和45年11月30日まで有効

No. 農 林 省

都道府県 **兵庫県明石市** 市区町村 **東藤江町** 昭和 **46.11.4** 日交付

世帯主 住所 **東藤江町11番25号 [稲打石]** 市区町村長名印 **明石市長印**

氏名 **矢田 隆是**

年月別 **6/11**

世帯員(世帯主を含む) **3**

基本配給 **4.5**

希望配給 **通常消費する希望数量**

市区町村長印 **明石市長印**

米穀通帳 1969年 S.44

1964年兵庫県都市対抗野球、神戸市で優勝したとき

都市対抗神戸予選

神戸製鋼 捕手として出場

優勝

(神戸)神戸製鋼 6対0
(兵庫)神戸製鋼 5対2

試合予定日 7月5日

尚大会の予選で6月28日于神戸市立丸山グラウンドにて練習試合を全員参加し、その後神戸市立丸山グラウンドにて発表試合を使用球トウポホー

64.6.30

神鋼野球大会

1964年

S.39

1 軟式野球

審判員 八・巻 英 一 (機販業務)
 隅 田 利 数 (岩屋経理)
 岩 間 彰 泰 (四 機)
 馬 場 豊 (機械計算)

本社地区

岩屋地区

監督) 富 樫 淳 (庶務)	奥 野 茂 (計 装)
マネージャー) 入 富 義 夫	湯 浅 能 行 (経 理)
主 将) 石 原 克 己 (一機販)	高 木 良 市 (四 機)
投 手) 石 原 克 己 (一機販)	結 城 禎 (一 機)
捕 手) 矢 田 興 是 (技管理)	中 尾 一 利 (一 機)
	山 本 憲 一 (四 機)
野 手 浅 田 邦 夫 (三匠延機)	佐 伯 良 治 (一 機)
○ 松 村 法 雄 (機械プレス)	若 林 順 一 (")
高 谷 靖 (庶 務)	若 木 久 男 (")
松 岡 弘 (二匠延機)	佐 野 義 和 (四 機)
橋 本 鈞 (特 機)	中 村 勉 (")
○ 三 古 秀 行 (SRM設計)	坂 本 憲 治 (")
新 田 千 都 (一匠延機)	宮 崎 確 彦 (")
藤 村 和 男 (三匠延機)	大 下 勝 (")
和 田 富 豊 (一 機販)	森 堅 太 郎 (")
角 神 規 幸 (二匠延機)	西 沢 省 吾 (一 機)
○ 佐々木 泰 司 (機械プレス)	小 谷 精 一 (計 装)
○ 中 西 定 之 (低 温 機)	
○ 大 脇 信 次 (液 圧 プレ ス)	

神戸製鋼 社内での野球大会 (本社、灘浜、脇浜、岩屋)
 6チーム参加で本社が優勝 本社チームの捕手として出場

本社チーム監督 富樫 淳さん
 神戸製鋼 野球部監督

送信通過番号

着信番号

0246

ニ六六メ

一四アシヤ

三〇〇六七

コセ・三〇

イタミル

イタミナミホンマチ六ノ八ノニ

ヤタタカヨシ殿

シキユウレンラクタノムモリヤ

送信時分

送信者

照合者

受信

四月一

電話番号

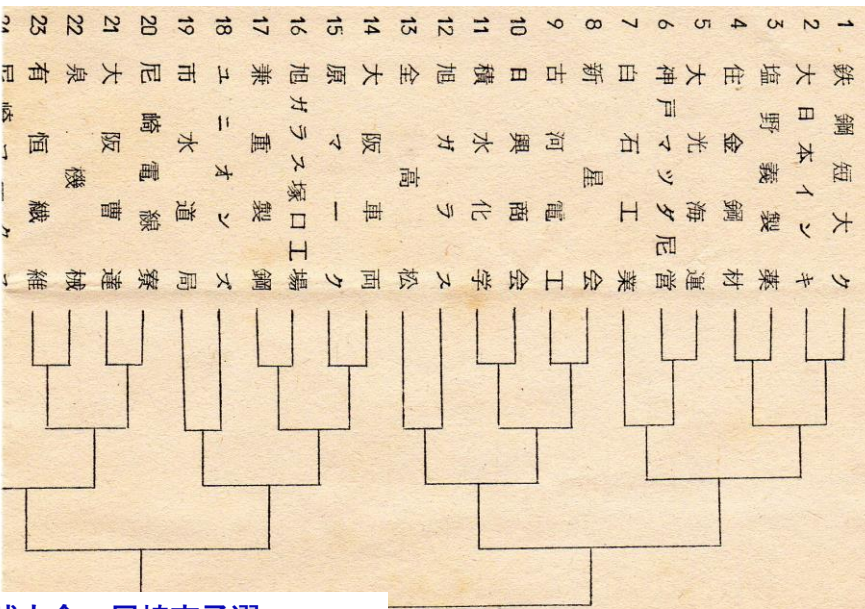
45411

日本電信電話公社

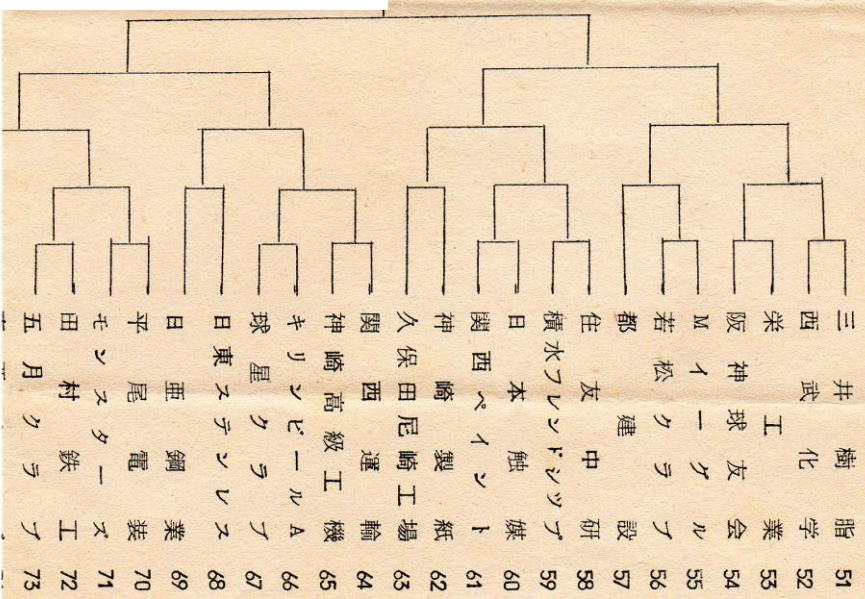
1970年 S.45

新婚旅行中に上司守屋さんからアパートに電報が来ていた
 すぐ連絡くれとのこと、用件は「芦屋研修所に出社せよ」

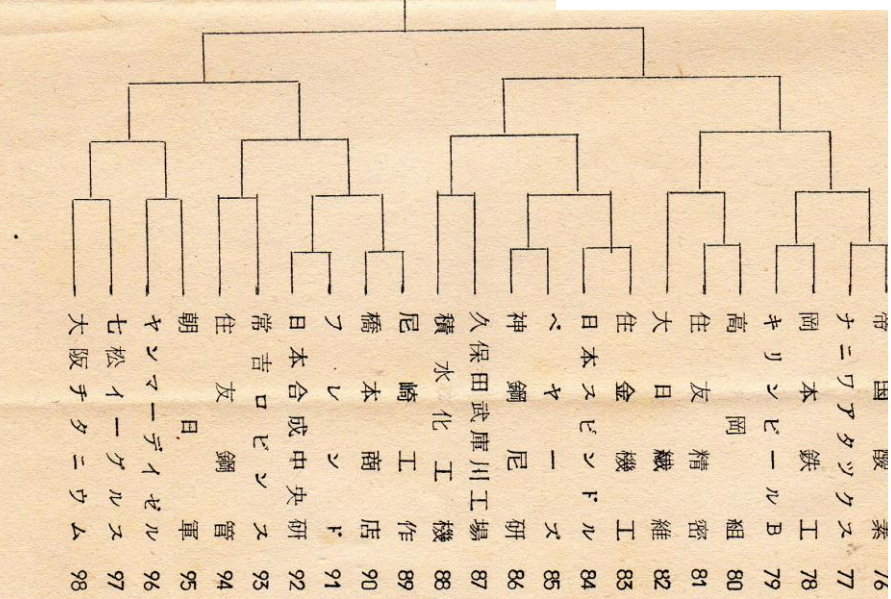
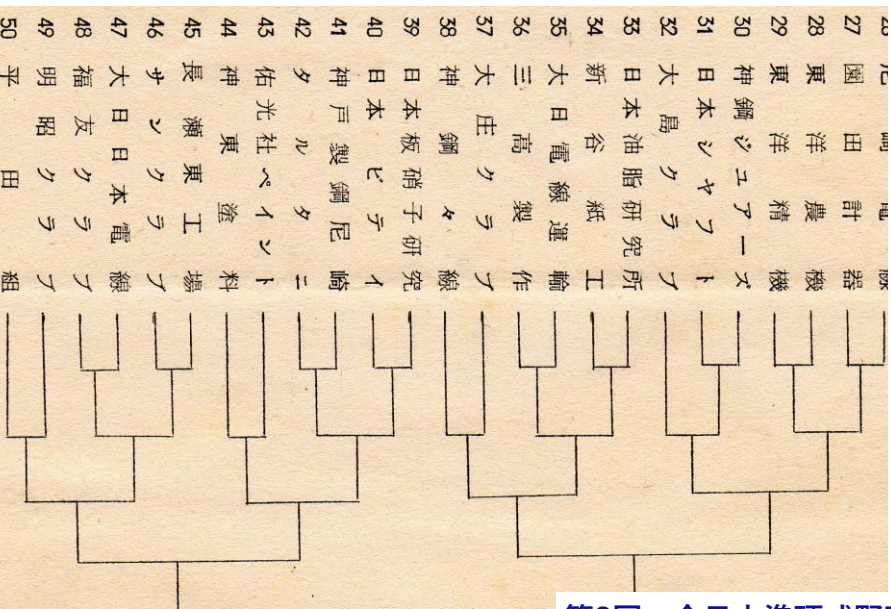
元 阪神タイガース 投手・外野手
 阪神タイガース 初代球団代表の次男



1968年 S.43



第2回 全日本準硬式野球大会 尼崎市予選
鉄鋼短大チーム (A級) として出場



向う横町のタバコ屋の
 可愛いナニニ嬢
 年は18 バニ茶も出花
 愛しいじゃないか
 ままけにタバコを渡す時
 可愛い目つき
 だから毎朝毎晩
 タバコを買いに行く
 タニコウ
 ニ、この頃毎朝毎晩
 タバコを買いに来た人は
 なくてタバコを飲む人は
 あつた人ね
 ぶすけにタバコを渡す時
 愛な目つき
 だけど店には下手なお客
 毎度有難そう

三、向う横町のタバコ屋の
 可愛い看板嬢
 始めはツーンと清々
 この頃うちとけて
 お早う、こんちは、こんばん
 お愛想よろし
 なかろうしお田タバコを
 タニコウ

新日鉄 君津製鉄所 出張時 鉄鋼短大時代の
 大隈さんを訪ねた 大隈さん得意の歌書いてくれた

四、今日で三日目あんな程に
 タバコを買ってたあの人か
 ちっとも来ない顔見せない
 一寸心配
 旦那引きか 腹こわし
 なんだか心配
 あいでこれやと考えてたろ
 おつりと間違えた

五、今日で五日目 タバコ屋の
 可愛い旦那嬢はどうしたろ
 四巻いに行きたし 金はなし
 横町も通れない
 だけど今日は給料日
 月給もあつた
 あわてて飛び込めタバコ屋の
 がうス戸割っちゃった

六、アーラーいぼろしどーしたん
 へへ、実は旦那引き 腹こわし
 せれいや、ばり病とびったの
 いえ、サイつかね
 だけど今日は給料日
 なんかろうしお田も
 タバコを下さい
 毎度有難そうございませ
 タニコウ ニラン ニラン

教育訓練・所内資料	情報処理技術
1970.10	No. 9

General Purpose Simulation System/360 User's Guide



株式会社 神戸製鋼所
中央研修所

1970年 結婚当初から担当した IBM製77° リケーションソフト GPSS教育
IBM マニュアルを神鋼用に 改製（矢田作成） 6ヶ月かかった

GPSSマニュアル 神鋼版

180 ページ

まえがき

企業発展のために欠かせない設備投資計画、あるいは工場内の設備や機械をどのように配置すれば効率的であるかを調べるレイアウトなど、経営科学の分野において、シミュレーションという手法が最近大きくとりあげられるようになってきた。

コンピュータの適用範囲の拡大、計算コストの低下と相まってシミュレーションは、自然科学の分野ばかりでなく産業界における問題にも私用され、現在では企業経営に関する諸問題、たとえば設備投資、生産管理、在庫管理、工場内の設備配置を決定する問題に利用されている。

この本は、待ち行列問題を解くため開発された汎用シミュレーション言語である。GPSS.(General Purpose Simulation System) の、書き方を、使用例を含めて詳細に記述しております。

さらに詳しい説明が必要な場合は、

General Purpose Simulation System/360 User's Manual (H20-0326)

General Purpose Simulation System/360 OS (360-A-CS-17X)

Operator's Manual (H20-0311)

を参照ください。

1970年12月

目 次

第1章 GPSS/360概説..... 1

1-1 概 説..... 1

1-2 適用分野..... 1

1-3 簡単な例..... 1

1-4 構成要素..... 2

第2章 GPSS/360の基礎..... 5

2-1 Block diagram..... 7

2-2 Clock time..... 8

2-3 Advance Block time..... 8

2-4 GPSS/360 entities..... 9

2-5 SNA(Standard numerical attribute)..... 11

2-6 SLA(Standard logical attribute)..... 16

2-7 CodingとSymbol..... 18

第3章 CORE ALLOCATION & REALLOCATION..... 21

3-1 Normal Quantity of GPSS/360 Entities..... 23

3-2 Reallocation of GPSS/360 Entities..... 24

第4章 FUNCTION Entity..... 25

4-1 Function definition Card..... 28

4-2 Function follower Card..... 28

4-3 Functionの種類..... 31

4-4 Function使用に関するError..... 34

4-5 乱数発生..... 35

第5章 VARIABLE Entity..... 37

5-1 Variable definition Card..... 39

5-2 Arithmetic Variable..... 40

5-3 Floating-point arithmetic Variable..... 41

5-4 Boolean Variable..... 41

第6章 TRANSACTION Entity..... 45

6-1 Transaction Parameter..... 47

6-2 Transaction Transit Time..... 47

GPSSマニュアル 神鋼版

6-3 Parameter Transit Time..... 48

6-4 Transaction Priority..... 48

6-5 GPSS/360の中のTransaction..... 49

6-6 Transaction Printout..... 50

6-7 S/360 CORE ALLOCATION for Transaction..... 58

第7章 BLOCK Entity..... 57

7-1 Block definition Card..... 59

7-2 Block Count..... 59

7-3 各種Blockの説明..... 60

第8章 STANDARD GPSS/360 OUTPUT..... 125

8-1 Facility..... 127

8-2 Storage..... 129

8-3 Queue..... 131

8-4 Distribution Table..... 132

第9章 CONTROL Card..... 135

第10章 内部構成..... 145

10-1 チェイン..... 148

10-2 SCAN, overall GPSS/360 (内部の流れ)..... 151

APPENDIX A ; GPSS/360 PROGRAM ERRORS..... 157

A-1 Assembly program error..... 157

A-2 Input error..... 159

A-3 Execution error..... 163

A-4 Output error..... 165

APPENDIX B ; GPSS/360 Assembly program..... 168

B-1 Block & Entity Symbols..... 168

B-2 Location field argument..... 168

B-3 Operand field Argument..... 168

B-4 Relative addressing of block locations..... 168

B-5 Symbolic entity Reference..... 170

B-6 MACRO..... 171

B-7 UPDATE feature..... 174

APPENDIX C ; OUTPUT EDITOR..... 179

INDEX

[A]	[D]
Absolute clock time..... 8	Delay chain..... 149
ADD card..... 176	DELETE card..... 177
ADVANCE block..... 74	DEPART block..... 75
Allocation..... 21	Discrete attribute valued function..... 32
ALTER block..... 123	Discrete numerical valued function..... 32
Arithmetic variable..... 40	Distribution tables.....
ASSEMBLE block..... 89	[E]
Assembly program..... 168	EJECT card..... 188
Assembly sets..... 87	END card..... 141
ASSIGN block..... 65	ENDGRAPH card..... 196
[B]	ENDMACRO card..... 172
Block diagrams..... 7	ENTER block..... 72
Block definition card..... 59	EQU card..... 171
Boolean variables..... 41	Errors..... 157
BUFFER block..... 104	EXAMINE block..... 121
[C]	EXECUTE block..... 117
CARD Formats	[F]
Block..... 59	Facilities..... 4
Function definition..... 28	Floating-point variable..... 41
Function follower..... 28	FORMAT card..... 184
Initial..... 95	Function..... 27
Matrix definition..... 94	Future event chain..... 150
Remarks card..... 59	[G]
Storage definition..... 210	GATE block..... 97
Table definition..... 113	GATHER block..... 90
EQU card..... 171	GENERATE block..... 63
variable definition..... 39	GRAPH card..... 189
Chains..... 148	Group..... 119
CHANGE block..... 116	[I]
CLEAR card..... 140	INCLUDE card..... 181
Clock time..... 8	INDEX block..... 66
Relative..... 8	Indirect addressing..... 47
Absolute..... 8	INITIAL card..... 95
Continuous numerical valued function..... 31	Interrupt chain..... 150
Control card..... 137	
Core allocation..... 21	
COUNT block..... 110	
CREATE card..... 175	
Current event chain..... 149	

1970年 S.45

神戸製鋼 情報システム部門の概況書

年に2から3回改訂 鉄鋼五社情報処理委員会に提示
社内パンフレット、関係会社への提示 等に利用

システム部門の概況

1991年 H.03

平成3年12月

株式会社 神戸製鋼所

企画部システムSWIFT企画室

目次

1. システム部門の組織	
(1) 社内システム部門の組織構成	1
(2) コベルコシステム株式会社の組織構成	2
2. システム部門の要員構成	3
3. システム化の推進状況	4
4. コンピュータ設備とシステム構成	5~12
(1) 全社コンピュータ・ネットワーク	
(2) コンピュータ導入の経緯	
(3) 事業所コンピュータ・システムの構成	
(4) 主要コンピュータ一覧表	

神戸製鋼 情報システム部門の概況書

1. システム部門 系組織概況

会社名 神戸製鋼所
平成3年12月1日現在

事業所	システム部門組織	直管人員数
本社	企画部 システムSWIFT企画室 〔 全社企画・SWIFT 本社システム プログラム開発 〕	(担当業務) 全社システムSWIFT企画 19 本社部門のシステム化推進 4 プログラム推進 28 (51)
	鉄鋼(事) システム推進室	鉄鋼事業本部のシステム企画・推進 2
販売	販売管理室 営業情報システム推進室	営業情報システム化推進 9
加古川製鉄所	工程部 システム室 〔 企画・運営 素材 厚板 線材 薄板 検査・出荷 一般管理 〕	要員・予算・設備運営管理 製鉄・分塊・連綿生産管理システムの開発・保守 厚板生産管理システムの開発・保守 線材生産管理システムの開発・保守 冷延・表面処理・熱延生産管理システムの開発・保守 検査・出荷システムの開発・保守 一般管理・経理システムの開発・保守 87
神戸製鉄所	技術部 システム室 〔 企画 製鉄・製鋼・分塊 圧延 成品加工・出荷 工程管理・品質保証 鋼片物流 新鉄粉工場建設 一般管理 〕	設備・要員・予算・新規システムのFS 製鉄・製鋼・分塊システムの開発・保守 圧延システムの開発・保守 成品加工・出荷システムの開発・保守 受注・工程管理・品質保証システムの開発・保守 鋼片物流・鋼片加工システムの開発・保守 鉄粉生産管理システムの開発・保守 一般管理・設備保全システムの開発・保守 33
長府北工場	工務室 システム・グループ	長府北工場システム開発・保守 4
銚子製鋼工場	生産管理部 生産管理室	システム企画 3
溶接棒(事)	企画管理部 システム室 〔 企画 運営 改善 開発 〕	予算・計画・設備 スケジュール、運用管理、問合対応 既存システムの改善 新規システムの開発 14
延伸(事)	システム部 〔 企画調整 開発 情報センタ 販売・事業本部システム 真岡システム 秦野システム 名古屋システム 長府システム 〕	事業本部企画調整 情報サービス・データ提供・OA支援 事業本部共通システム開発・保守 真岡製造所システム開発・保守 秦野工場システム開発・保守 名古屋工場システム開発・保守 長府製造所システム開発・保守 68
機械エンジ(事)	企画管理部システム推進室 〔 事業本部システム統括 ソフト系企画・調整 ハード系企画・調整 建機系企画・調整 〕	事業本部システム化推進統括 ソフト系システムに関する企画・調整 ハード系システムに関する企画・調整 建機系システムに関する企画・調整 17
工具(事)	企画管理部システム推進室 〔 企画調整 〕	事業本部システム企画 中期計画、設備、要員、予算 生産管理システムの企画 販売管理システムの企画 4
新分野(事)	企画管理部 業務室	システム企画

コベルコシステム株式会社/コベルコソフト神戸株式会社 組織構成

'91.12.1 現在

組織構成	直管人員数
1. コベルコシステム株式会社	
企画管理部	・総務、人事、経理 32
第一事業部	・事業企画、教育、研修 11 ・神鋼本社プロジェクト(SWIFT)に関する受託事業 46 ・神鋼本社スタッフ部門に関する受託事業 24 ・神鋼鉄鋼、営業、物流部門に関する受託事業 42 ・神鋼建機、工具、ロボット部門に関する受託事業 23 ・神鋼鉄鋼生産部門に関する受託事業 31 ・神鋼向機器営業及サービス (188)
第二事業部	・外部受託事業 33 ・外部受託事業 30 ・外部受託事業 (99)
RCS事業部	・リモートコンピューティングサービス 23 ・システム技術、設備企画、及びVAR事業 27 ・加古川製鉄所のシステム技術、設備企画及び運營業務に関する受託事業 (71)
エンジニアリングシステム事業部	・営業部 18 ・第一システム部 21 ・第二システム部 29 ・第三システム部 29 ・第四システム部 (112) ・技術開発センター 6
合計	508
2. コベルコソフト神戸株式会社	
総務室	総務、人事、経理 3
開発室	システム開発受託事業 27
合計	30

神戸製鋼 情報システム部門の概況書

1991年 H.03

(4) 主要コンピュータ一覧表

事業所	機種	台数	ホスト計算機			周辺機器				備考
			OS	DB	主記憶容量 (MB)	磁気ディスク容量 (MB)	MSS 容量 (MB)	磁気テープ (台)	ライン・頁プリン能力 (千ライン/分)	
本社	IBM 3090-400E	1	MVS/ESA	IMS	256	} 626,400	—	14	8	
	IBM 9021-720	1	MVS/ESA	DB2 TOTAL	256					
技術開発本部	FUJITSU VP-200	1	MSP/VPCF	—	128	16,200	—	2	3.9	
加古川	IBM 3090-400E	1	} MVS/ESA	IMS	256	} 390,000	—	} 11	} 19.5	
	IBM 9021-620	1		DB2	256					
	FACOM M770	1	OS4/X8FSP	AIM/ACS	32	} 20,000	—	1	} 1	
	FACOM M770	1	OS4/X8FSP	AIM/ACS	32					
	FACOM M730	1	OS4/X8FSP	AIM/ACS	17					
	FACOM M730	1	OS4/F4MSP	AIM/RDB	13					
真岡	IBM 3090-170S	1	MVS/XA	TOTAL DL/ I IDEAL	64	58,000	—	6	4.4	
長府	IBM 4381-R03	1	MVS/SP	DL/ I IDEAL	32	40,000	—	0	2.4	
秦野	IBM 9221-150	1	DOS/VSE	DL/ I IDEAL	8	15,000	—	2	1.8	
名古屋	HITAC MG40-30	1	VOS3/ES1	PDM II	12	15,000	—	2	1.5	
合計		13			1,298	1,1810,000		42	43.5	

第7章 (株)神戸製鋼所における電算機による特許運用管理

7.1. 会社の概要

概況	1905年9月1日合名会社鈴木商店の神戸製鋼所として創業開始し、1911年6月鈴木商店から独立し、株式会社神戸製鋼所として発足。1948年8月の企業再建整備法による事業所分離その後の再編を経て現在に至る。
社長	高橋孝吉
資本金	1,012億8,482万円
従業員	30,400名
事業内容	鉄鋼・非鉄金属およびそれらの半製品、製品の製造販売、産業機械・建設機械・化学機械・船用鋳鍛鋼品等機械設備の製造販売、プラントエンジニアリングならびに工具・溶接棒の製造販売を業としており、それらはいずれも事業部独算体制をとりつつ事業運営されている。
売上高	1980年総額11,401億円鉄鋼部門6,048億円、機械・エンジニアリング部門2,936億円、アルミ・銅部門1,834億円、溶接棒部門583億円
事業組織	本社（神戸・東京）、研究所（4）、事業場・工場（20ヶ所）、営業所（国内8、海外7）、関係会社（50社）

7.2 技術法務部の業務機能

昭和51年11月、技術に関する総合的な技術法務管理業務機能の向上を意図して従来の技術職主体の特許管理部門（特許部）に事務職主体の技術契約管理部門（技術部技術契約課）を吸収し、技術開発本部技術法務部として現在に至る。〔管理職9名（内事務職系5名）、スタッフ男子25名（うち事務職系5名）〕

総合的な技術法務管理業務機能の向上とは、発明抽出、出願要否判断、侵害判定、特許調査等技術的判断、知識を基礎とする自然科学系の特許管理業務に対し、一般民商事法、税法、労働法、独禁法および工業所有権実体法の運用・解釈を主体とする人文科学系の法務管理業務を有機的に付加・結合せしめ、自社技術（または他社保有技術に対し）による企業利益の確保を効果的に実施しようとする事。

従って当社の技術法務管理業務は、特許、実用新案、意匠、商標等の工業所有権制度の運用管理に関する業務（以下特許管理業務と略す）ならびに技術導入・供与等の技術契約の締結・運用、技術契約および工業所有権侵害・被侵害等に係る技術紛争処理に関する業務（以下狭義の技術法務管理業務と略す）から構成されている。

これら技術法務管理業務は、とすれば技術開発等技術活動の結果の後処理的な業務機能と

鉄鋼五社に先駆けて構築した 特許情報システム

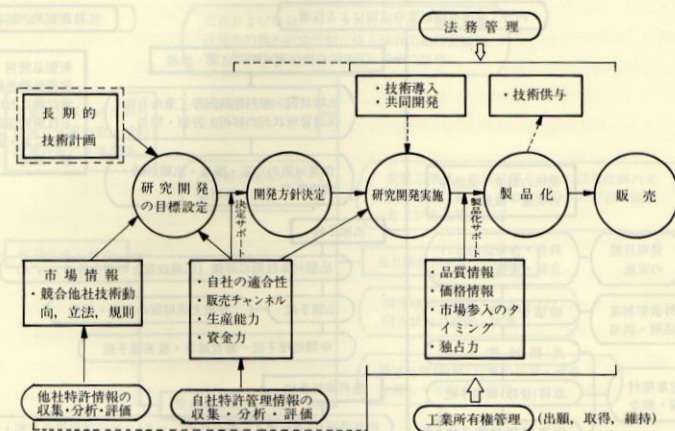
特許部としても長年の懸案事項（部門改革）

当時システム管理部 主担当で参加

特許情報システム

してとらえがちであるが、技術の具体的保護手段の適正な実施および保護の実効性を確保（保護した技術効果の利用活用等）するためには、開発から生産、販売に至る経営活動に密着しつつ、法的ニーズを的確に把握して、その業務機能を展開してゆかねばならず、またそのためには、保護状況実績を多面的に分析・評価して経営活動へフィードバックする必要がある等能動的戦略的な機能をも含むものと認識し、目下当社では態勢整備につとめているところである。

表7.2 技術活動と技術法務管理機能



7.3 技術法務管理業務のシステム化

7.3.1 システム化の背景および狙い

内外の不透明、不安定な経営環境諸要因によって企業経営もいよいよ厳しさを加えつつあるが、製造業にとつての最大の頼りどころは技術開発をはじめとする技術力の維持、発展施策の効果的な実施であり、また保有する技術および技術によって生ずる企業利益の効果的な保護施策および保護態勢の確立である。このためには、技術法務管理機能の整備充実の観点から技術活動結果に対する追従的・受身的なもから能動的、経営戦略的貢献機能の発揮において再編・システム化することとした。

(1) 技術法務管理機能の能動的展開

(a) 技術法務管理業務は、とすれば、技術開発、技術導入・供与、技術紛争等技術活動の結果生じた事案を単に処理するという後処理的業務とみられがちであるが、これらを効果的に処理するには、その事案の企業の中の技術上の位置づけが明らかにならなければならない、

以下 3 ページは 矢田創作 概念図・概要書

特許情報システム

表7.3 特許等管理業務システム概念図

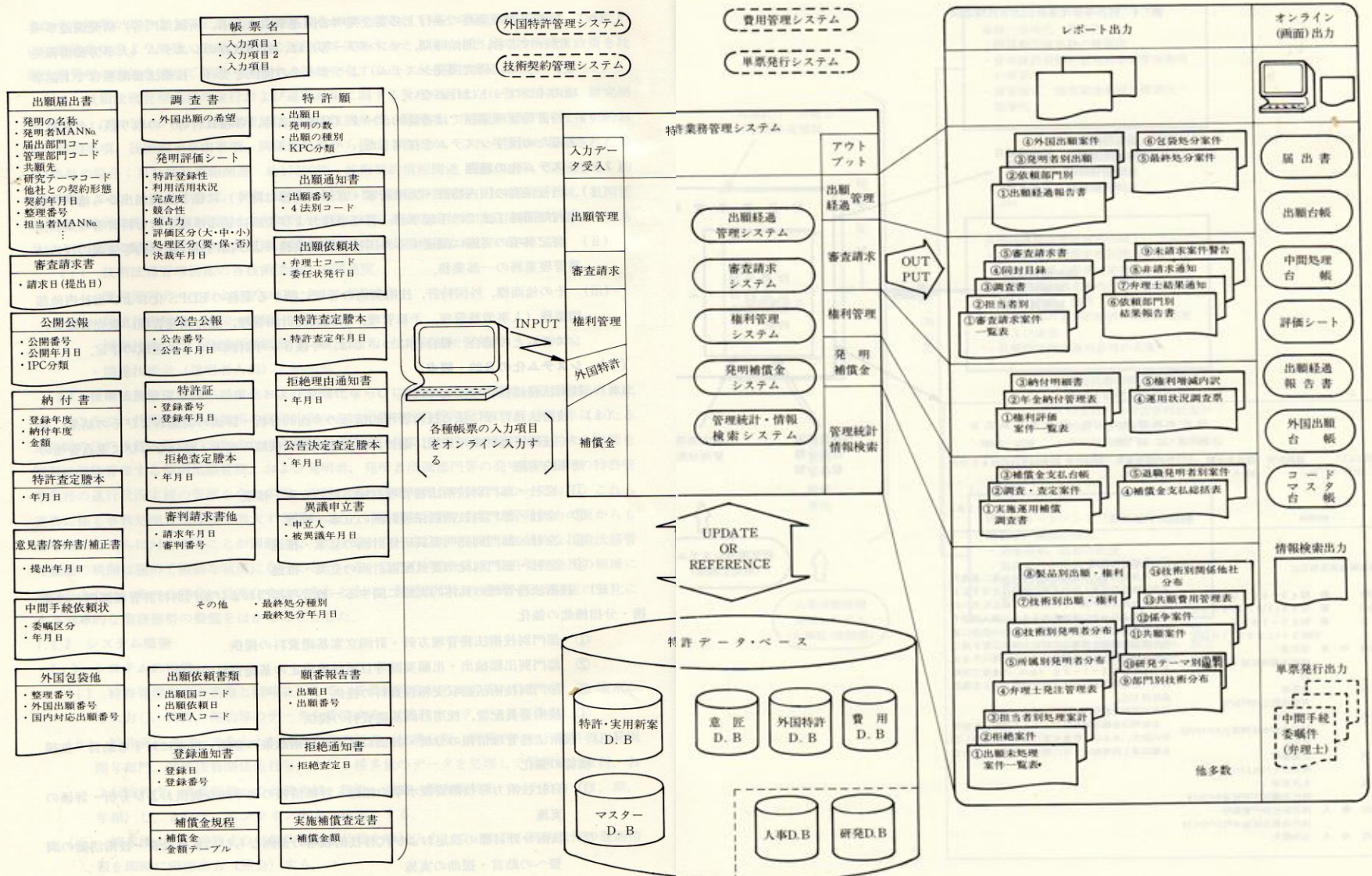


表7.5 各システムの概要

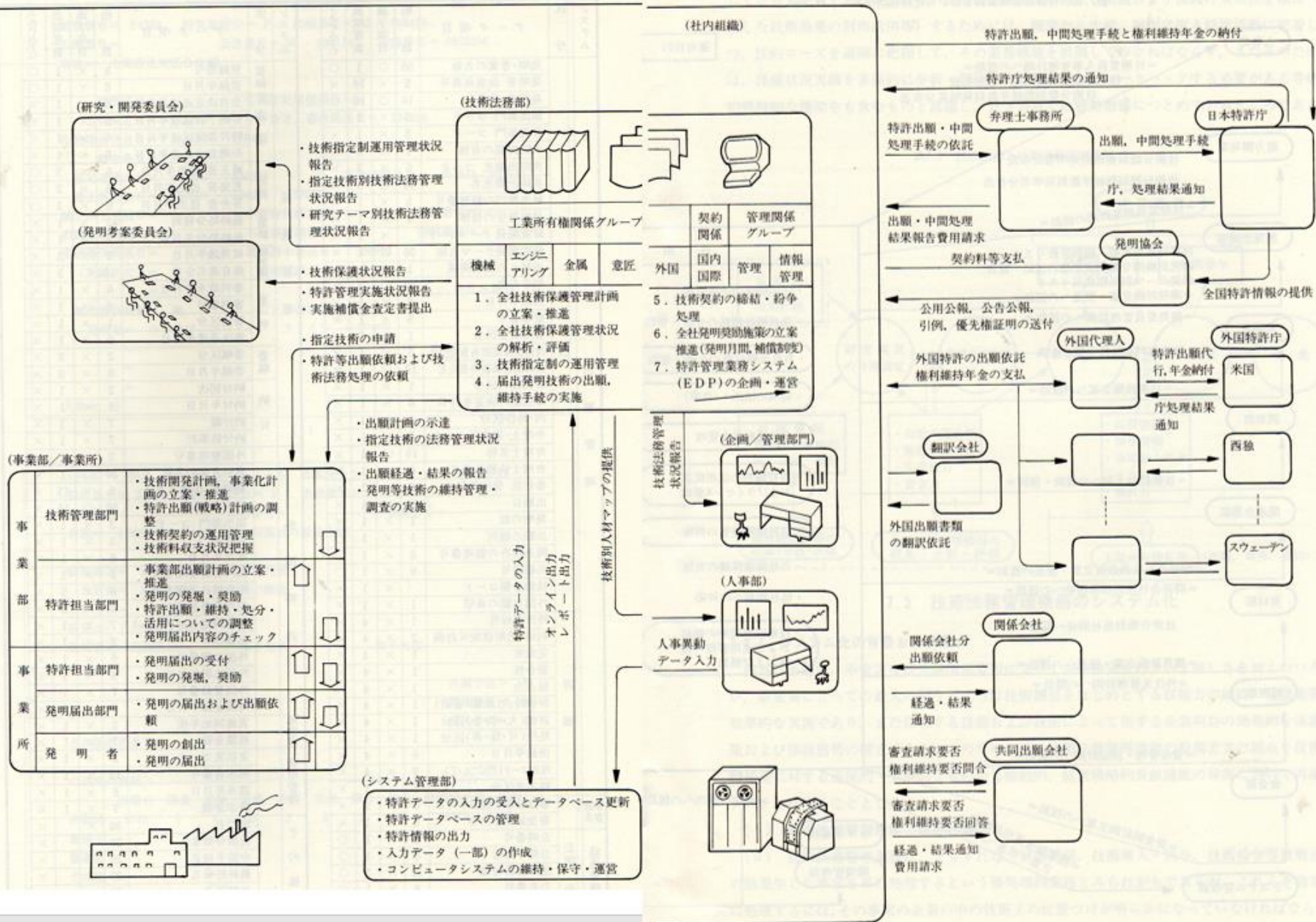
出願管理システム 経過管理システム	<p>・ 全社各部門から届出された発明考案に対して届出事項、調査等の項目、発明評価の結果、弁理士への依頼事項、特許庁への出願書類、庁からの通知事項に関する主要データを業務と並行してオンライン端末から入力し、特許データベースへの追加、更新を実施する。</p> <p>・ 特許データベースから出願管理に必要な作表を出力する。</p> <p>・ 特・実・意を対象として審査請求以降の庁とのやりとり、すなわち、拒絶予告、意見書、補正書の提出、公告、特許査定、拒絶査定、被異議、審判請求等特許登録までの事象と年月日等の主要データをオンライン入力により、特許データベースを追加更新する。</p> <p>これにより出願案件の進捗状況がオンライン画面で即時にみれるようになる。(公開および登録査定後の初回登録料納付を含む)</p>
審査請求システム	<p>過去に出願した特許、実用新案の中から、その経過年数(1年、2年、4年)により審査請求候補案件を抽出し、その案件のリストおよび審査請求要否の調査書を出力するとともに、その時点での発明の評価と請求の要否結果を入力し、</p> <p>①審査請求書 (特許庁) ②審査請求通知書 (事業部報告) ③審査請求通知書 (弁理士報告) ④審査請求集計表</p> <p>等を出力する。</p>
権利管理システム	<p>登録権利となった特許等について特許データベースに蓄積されたデータに基づいて、</p> <p>①年間登録料を公告月ごとに毎月支払する案件ごとの計算と納付明細書、集計表、共願先請求リストの作成。</p> <p>②登録権利の発明者別、届出部門別、技術別の各案件明細を作成する。</p> <p>③出願以降、権利取得後における特許等の使用状況のインプットに基づき、技術別、部門別の使用状況、活用状況表を作成する。</p>
補償金システム	<p>特許データベースをもとに、特許、実用新案、意匠を対象として、(出願補償)新規出願した案件につき年2回、案件別、個人別に補償金を計算、集計する。</p> <p>(取得補償)新しく権利取得した案件について年1回案件別、個人別に取得補償金を計算、集計する。</p> <p>(実施・運用補償金)過去の権利取得案件すべてについて、実施・運用補償のための調査書と、実施・運用実績のある案件についての査定書を出力し、調査、査定のもと、査定金額を案件ごとに入力し、発明者個人ごとの補償金の計算を実施。</p> <p>出願、取得、実施、運用補償とも補償金計算後、人事データを参照、最新の所属に基づく部門別、個人別の支払リストと集計表を出力する。</p>
管理統計システム	<p>特許管理の質的向上、技術開発活動の法的保護の側面からのフォローアップ、および他社との技術的関連状況の把握のための資料として、</p> <p>①部門別、技術別出願・取得状況表 ②出願経過状況表 ③共願案件、契約案件リスト</p> <p>等を定期的に出力する。</p> <p>また、システム稼働後の特許管理の充実、強化、制度変更、研究開発計画の立案、技術プロジェクトのチーム編成などに必要な資料を非定期的におオーダーメイドの形式で作成する。</p>
情報検索システム	<p>オンライン端末より任意の検索条件(特許等種別、技術分類、出願年度、届出部門……)を入力することにより特許データベースの中から該当案件を抽出し、その案件の内容を端末プリンタに出力する。</p>

特許情報システム

1980年 S.55

特許情報システム

表7.9 特許等管理業務システム運営図



第10回
システム部門 情報交流会
資料

1993年 H.5

T.YADA

1993年9月24日

企画部・システムSWIFIT企画室

当資料は必ずご持参下さい

目次

	ページ
I. 開催要領	1
1. 日時	1
2. 場所	1
3. 目的	1
4. 参加人数	1
5. 会場案内図	2
6. プログラム	3
II. 参加者名簿	4
III. 発表内容の概要書	7
IV. 事例発表（発表順）	10
1. 「就業管理システム —就業管理に関する業務の効率化・迅速化—	10
2. 「K A A Lシステム」	18
3. 「棒鋼出荷ヤードの現品管理システム」	34
4. 「—UNIX生産管理システムによるCIM構築— FROM-C I M」	52
5. 「エンジニアリング情報の一元化」	72
V. テーマ研究会発表（発表順）	99
1. ダウンサイジング	99
2. 企画職の生産性向上についての考察	113

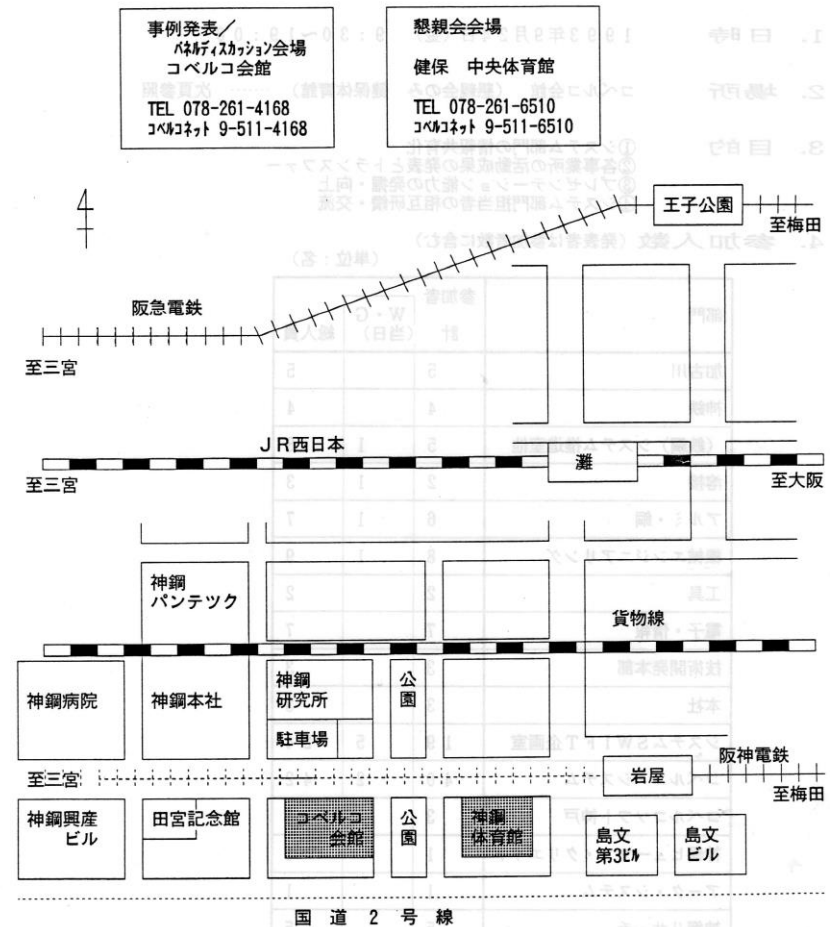
コベルコ会館、本社体育館 はもう無い (1995年関西大震災で)

第10回 システム部門 情報交流会 開催要領

1. 日時 1993年9月24日(金) 9:30~19:00
2. 場所 コベルコ会館 (懇親会のみ 健保体育館) 次頁参照
3. 目的
 - ①システム部門の情報共有化
 - ②各事業所の活動成果の発表とトランスファー
 - ③プレゼンテーション能力の発掘・向上
 - ④システム部門担当者の相互研鑽・交流
4. 参加人数 (発表者は参加者数に含む) (単位: 名)

部門	参加者		総人員
	計	W・G (当日)	
加古川	5		5
神鉄	4		4
(鉄鋼) システム推進室他	5	1	6
溶接	2	1	3
アルミ・銅	6	1	7
機械エンジニアリング	8	1	9
工具	2		2
電子・情報	7		7
技術開発本部	3		3
本社	3		3
システムSWIFT企画室	19	5	24
コベルコ・システム	40	2	42
コベルコソフト神戸	3		3
神鋼ヒューマン・クリエイト	1		1
アーク・システム	1		1
神鋼リサーチ	5		5
合計	114	11	125

5. 会場案内図



1993年 H.5

- ・新幹線神戸駅下車、地下鉄にてJR三宮駅へ連絡
- ・JR三宮駅及び新幹線神戸駅から、タクシーにて10分
- ・JR三宮駅下車 徒歩3分
- ・阪神岩屋駅下車 徒歩2分

関係会社 74社のシステム化の現状

'91年度関係会社システム化実態調査結果 (要約編)

* 別編は別冊

1991年 6月

(株) 神戸製鋼所

関連企業部

企画部システムSWIFT企画室

'94年度関係会社システム化実態調査結果

1994年 11月

(株) 神戸製鋼所

総合企画部 関連企業グループ

'96年度関係会社システム化実態調査結果

1996年 4月

(株) 神戸製鋼所

総合企画部 関連企業・経営企画グループ

目次

1. システム化の現状と今後の計画 1-23
2. システム部門の組織と要員 24-27
3. コンピュータ設備 28-29
4. 利用業務状況(プログラム本数) 30-32
5. システム費用 33-34
6. パッケージ・ソフトの導入状況 35-36
7. パソコンの導入状況と利用ソフト 37-38
8. インフラの整備状況 39-41
(電子メール/内局通信、EDI等)

付表：関係会社システム部門窓口リスト

会社名	主管部門	回答
日本高周波鋼業	鉄鋼	○
神鋼建材工業	"	*
神鋼海運	"	○
神鋼加古川港運	"	○
神鋼メックス	"	○
第一耐火煉瓦	"	○
神鋼鋼線工業	"	○
堺鋼板工業	"	○
神鋼鋼板加工	"	○
神鋼ボルト	"	○
神鋼シャーレックス	"	○
神鋼陸運	"	○
品川炬材	"	○
三和鐵鋼	"	○
旭海運	"	○
阪神溶接機材	溶接	○
神鋼アクテック	"	○
神鋼マテリア	"	○
神鋼溶接サービス	"	○
サン・ワタニウム工業	7&M・銅	*
神鋼ノース	"	*
大同軽金属工業	"	○
神鋼メタルプロダクツ	"	○
ニコーアルミ工業	"	*
秦野パイプセンター	"	○
リードミック	"	○
神鋼7&M77&M	"	○
神鋼7&M77&M 輸送機材料	"	○
神鋼プラント建設	機械・エンジニア	○
神鋼アイイーテック	"	○
大阪製鋼造機	"	○
神鋼造機	"	○
神和木材工業	"	○
神鋼検査サービス	"	*
神鋼テクノ	"	*
神鋼コベルコ建機	"	*
油谷重工	"	○
コベルコ建機エンジニアリング	"	*

会社名	主管部門	回答
インダストリアル・エンジニアリング	機械・エンジニア	○
日本パラレルワイヤー	"	○
コベルコ産機サービス	"	○
コベルコエンジニアリング	工 具	○
サイバネットシステム	電子情報	○
シロノ ネットテクノロジー	"	*
ジェニス・テクノロジー	"	○
コベルコシステム	"	○
アークシステム	"	○
K T 1セミコンダクター	"	○
神鋼電機	本 社	○
ナブコ	"	○
神鋼機器工業	"	○
神鋼バンテック	"	○
神鋼興産	"	○
神鋼商事	"	○
神鋼トランスミス	"	○
神戸総合サービス	"	*
神鋼ヒューマンサービス	"	*
コベルコ科研	"	○
神鋼リサーチ	"	○
神鋼グッズサービス	"	*
神鋼リース	"	○
インターナショナルトレーニングサービス	"	*
コベルコサービス	"	○
神鋼ファブテック	"	○
ジャスティック関西	"	○
コベルコサービス	"	○
ツインフーズ	"	○
神鋼メディコ	"	○
アオノリゾート	"	○
神戸臨海開発	"	○
神鋼ケアライフ	"	○
神鋼大安総合サービス	"	○
神鋼真岡総合サービス	"	○
コベルコサービス	"	○
計 74 社		

関係会社 74社のシステム化の現状

1991-1994 H.3-H6

システム化の現状と今後の計画

会社名	現在稼働しているシステム					今後(3年間)の計画システム			
	稼働システム名	概要	稼働年月	処理形態 (ワ/パ/フ)	規模 プログラム 本数	計画システム名	システム化の背景・概要	完了予定	備考
(金失斜岡)									
日本高周波鋼業	資材購買	購入要求、承認、発注承認、OCR受入検収、発注残管理	'93/10	ワ/パ/フ	232	生産管理システム 再構築	<ul style="list-style-type: none"> 管理項目の明確化、タイムリーな情報管理 素材受払業務 不適合情報管理 受注組み込み処理改善 生産情報の有効活用 	96/末	
	財務会計	各情報との接続(売掛、買掛、給与、固定資産etc)による自動仕訳会計処理	'95/10	ワ/パ/フ	396				
	製品原価	(製品コスト管理) 製品コスト予算・実績管理データ	'92/10	ワ/パ/フ	109	データの有効活用 報告システム	<ul style="list-style-type: none"> 経営判断資料の提供 タイムリーな情報提供 C/Sシステム、クライアント 	97/中	
	固定資産	予算、建仮、本勘、償却計算、除却までの資産管理	'95/10	ワ/パ/フ	136				
	生産管理	生産指示、実績管理							

2. システム部門の組織と要員(人)

(下段は女性で内職) 調査は94年10月

会社名	従業員数 (人) '95/4	システム担当部門	前回調査		今回調査							1年後予想			3年後予想			備考	
			社内	社外	社内					社外	合計	社内	社外	合計	社内	社外	合計		
					管理	SE	PG	運営	他										
(金失斜岡)																			
日本高周波鋼業	1120	企画管理部システム管理室	10	10	2	8			1	11	10	21	11	9	20	10	8	18	
			1	1				1	1	1	2	1	1	2	1	8	1		
神鋼建材工業	423	企画管理部システム室	6		1	1.5	2	0.5		5	2	7	6	2	8	8	2	10	

関係会社 74社のシステム化の現状

3. コンピュータ設備概要

会社名	分類	現状		3年後	
		メーカー・機種	台数	メーカー・機種	台数
(金失斜岡)					
日本高周波	本体機種	IBM 9121-210	1	IBM 9672-R12	1
		9377-80	1	AS400	4
		AS400	4		
* 神鋼建材	端末機種	シリコングラフィクス	2	3次元CAD/CAM (GRADE-CAD) (NC-CUBE-CA) ETC	20
	CAD関係	IBM 5560-EGCAM	5		
		750 5560	10		
神	本体機種				
	端末機種				
* 神	本体機種	IBM 9221-150	1	IBM 9221-150	1
		AS400		AS400	

5. システム費用

会社名	年間費用 [96.4月調査] (百万円/年)							対売上高比 (%)		
	前回 合計 94年度	合計	社内 労務費	外注費	設備費	その他 経費	3年後	前 回	今 回	3 年後
(金失斜岡)										
日本高周波鋼業	298	474	88	76	284	26	485	0.72	1.2	1.2
神鋼建材工業	163	161	26	17	116	2	176	0.95	0.80	0.73

4. 利用業務状況（プログラム本表）：分野別にみたシステム規模を示す

(注) ()は総本数に対する比率 %、

会社名	総本数	分野別													備考	
		1 経営管理	2 人事労務	3 財務経理	4 原料資材	5 受注販売	6 生産工程	7 出荷輸送	8 品質技術	9 保全	10 環境	11 技術計算	12 汎用運用	13 その他		
(金大鋼同)																
日本高周波工業	5311	60(1)	405(8)	635(12)	232(4)	900(17)	2050(39)	197(4)	282(5)	23(0.4)			248(5)	279(5)	・外注管理、固定資産	
* 神鋼建材工業	923		ホケー	134(15)	107(12)	142(15)	226(24)	54(6)	19(2)				31(3)	210(23)		
神鋼海運	2331		546(23)	508(22)				489(21)					30(1)	758(33)	・海貨、倉庫	

6. パッケージ・ソフトの導入状況

会社名	導入済 (千円)						
	パッケージ名	適用分野	導入年月	ソフト・メーカー	利用機種	価格	評価
(金大鋼同)							
神鋼建材工業	財務システム 給与システム 人事システム	財務管理 給与管理 人事管理	'84/9 '90/12 '91/1	富士通 " "			普通 " "
神鋼メックス	X-PACK 給与 X-PACK 経理 SAP	給与計算 財務会計 原価管理	'93/2 '94/3 '96/7	IBM " SAP	AS400 " RS6000	600 1,500 5,500	普通 " "

関係会社 74社のシステム化の現状

7. パソコンの導入状況

会社名	PC台数	企画職1人当り台数	台数内訳				利用ソフトウェアと数					
			WIN機	OS/2機	MC機	その他	電子メール	ワープロ	表計算	データベース	ワーカド	その他
			(金大鋼同)									
日本高周波工業	153	0.5	150	3			7カ 100 大自 20 DOS-WP30	L-123 120 JW 20		ワー 5		
神鋼海運	210	1	180			60	大自 20 WORD 180 DOS-WP30	EXCEL 180 MP 60 MP 60	ACCESS 20	ワー 25		

1991-1994 H.3-H6

◎：現状 ○：今後の予定

会社名	電子メール・パソコン通信	インターネット	グループウェア	EDI (他社とのデータ電送)	その他
【電子子青幸反】					
特約システム	◎EJとEUCP接続による利用、社内は内線電話経由で行なわれている接続をLAN接続に移行中。メールをMS EX-CHANGE統一推進中	◎東京インターネットとの専用線接続によりメールが利用可能。社外はEJの代行サービスを利用。96秋に社内向けイントラネットを立上			
サーバソフトウェア					
データベース	◎全社で利用 (約600名、68%) ◎グループウェアとの統合、EUCPデータベース (遠隔地、出先) 利用環境整備	◎適用中。コピーとしての活動	◎[NOTES] 一部部門で適用中、[EXCHANGE] 適用に向け技術検証		

(附表)

関係会社システム管理担当窓口リスト (1/3)

1996年4月現在調査より

部門名	会社名	担当役員	部長クラス	次長クラス	発先	備考	
鉄鋼	1 日本製鋼所	常務取締役	中山 昌一	システム管理部長	山田 忠宣	〒100 東京都千代田区大手町1丁目2 物産ビル	富士製鋼所: 〒334 富山県砺波市山手町1丁目10番
	2 神鋼製鋼	取締役企画管理部長	田所	企画管理部長	山岡 毅嗣	社内メール (EUCP)	
	3 神鋼メックス	取締役総務部長	藤中 修	総務部企画担当	阿賀、松林	社内メール (EUCP)	
	4 エル・エス・エス	常務取締役	南方 潤二	業務部長	富士原博美		社内メール (EUCP)
5 日本製鋼所	常務取締役	中山 昌一		システム管理部長	山田 忠宣	〒100 東京都千代田区大手町1丁目2 物産ビル2F	

関係会社 74社のシステム化の現状

1991-1994 H.3-H6

Superior Note Book

MADE BY KYOKUTO NOTE CO., LTD.
USED SUPERFINE FOOLSCAP MANUFACTURED IN JAPAN

1966. 8

北海道・東北旅行

北海道旅行

鉄鋼短期大学

北海道旅行

天田隆是

1966年 S.41

○ Party

4名. * 有谷 裕 (23.) = 三菱製鋼 長崎
 天田隆是 (23.) = 神戸製鋼
 大西 (22.) =
 中井四郎 (22.) = 愛知製鋼

* 代表者.

○ 期間.

S. 41. 8. 3 ~ S. 41. 8. 20 18日間

○ 行程.

大阪 → 青森 → 函館 → 札幌 → 稚内 → 利尻 → 稚内 → 旭川
 ↓
 美幌峠 ← 美幌 ← 洞走 ← 上川 ← 層雲峡 ← 上川 ↓
 ↓
 屈斜路湖 → 川湯温泉 → 摩周湖 → 阿寒湖 → 釧路
 ↓
 六尾 ← 帯広 ← 然別湖 ← 帯広 ← 根室 ← 網走 ← 根室 ↓
 ↓
 幌泉 → 襟裳岬 → 幌泉 → 様似 → 苫小牧 → 支笏湖 → 外丸湖
 ↓
 青森 ← 函館 ← 洞爺 ← 洞爺湖 ← 洞爺 ← 白老 ← 苫小牧
 ↓
 休屋(十和田湖) → 十和田南 → 好摩 → 盛岡 → 秋田 → 仙台
 ↓
 東京
 ↓
 大阪

○ 費用 40,000 円/人

均一周遊券	11,000 円
交通費	9,000
宿泊費	10,000
食費	4,000
予備費	6,000
計	40,000 円

北海道旅行

11月3日(水)

5時の深夜にマニラを出て2階とヤシ
船、7時~5時頃、部屋の前で中絶して
6時30分に大西と出て、甲斐川に
6時20分に着いた。徹夜を一泊に見送る、
大西、徹夜にマニラと一足が小つくりで
翌日マニラへ行く。

2日経て北海道旅行の出発前を思えば、

マニラ、マニラとマニラ。

6時30分のマニラ武蔵の花の急ぎで、

1階大階段の10分中乳を飲む

7時40分頃、次乳を飲む。

白鳥の5号、10番、15番が来る。

大階段の10分中乳を飲む、北海道へ行く人達

より、8時、大階段の10分中乳を飲む。

8時20分、大階段の10分中乳を飲む。

大階段の10分中乳を飲む。

大階段の10分中乳を飲む。

大階段の10分中乳を飲む。

大階段の10分中乳を飲む。

大階段の10分中乳を飲む。

大階段の10分中乳を飲む。

大階段の10分中乳を飲む。

大階段の10分中乳を飲む。

大階段の10分中乳を飲む。

大階段の10分中乳を飲む。

大階段の10分中乳を飲む。

大階段の10分中乳を飲む。

11月4日(木)

札幌駅の待合室に11時着く。TUPに同じ国、札幌に2時~6時
札幌駅の待合室に11時着く。TUPに同じ国、札幌に2時~6時
札幌駅の待合室に11時着く。TUPに同じ国、札幌に2時~6時

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

6時半、待合室の掃除を終る。10分中乳を飲む。

北海道旅行

11-17

5時頃目が覚めたのは昨夜九時過ぎに寝たからである。
 今更に早く寝たかと思えば、朝の5時頃にはどうも苦しい感じがする。

七時半にYH玉巻線乗車。七、三五分の急行下り乗車。
 根室から……列車は四列車両、同じ座席に座長、姉妹、
 と大西と4人がトカエトカエ。お茶、お菓子、お水、おタバコと華やかな
 下車時刻は一歩の足跡が……

28日 根室という人、何かか感い良し人、列車が根室駅へ
 着いた時は、これ、これ、札幌に行くとか、か……と色々言われ、
 下車後、お別れの際に、彼が、お茶、お菓子、お水、おタバコと「長きお茶話に
 下りた。悲しいけれど、今日限りお茶、お菓子、お水、おタバコ……」
 といふお茶話、一役をこなしたお茶、お菓子、お水、おタバコ……

帯広駅まで昼食して13時頃、お茶、お菓子、お水、おタバコと、お別れ湖畔。
 お茶、お菓子、お水、おタバコと、お別れ湖畔……

湖畔に15時30分頃着く。お別れ湖畔、お茶、お菓子、お水、おタバコと、
 お茶、お菓子、お水、おタバコと、お別れ湖畔……

1966年 S.41

8月17日

音森入道……1時15分頃……
 札幌行、5.45分……歌……
 歌……
 5時頃……大西……歌……

音森駅……
 音森駅……

音森の……
 音森の……

音森の……
 音森の……

音森の……
 音森の……

音森の……
 音森の……

賞状

第六学年

天田隆是

右者学業に努力し
その成績が優秀で
任務もよく果した
ので之を賞する

昭和三十五年三月二十四日

大分縣別府市立朝日小学校



賞状

七等

機械科一年

矢田隆是

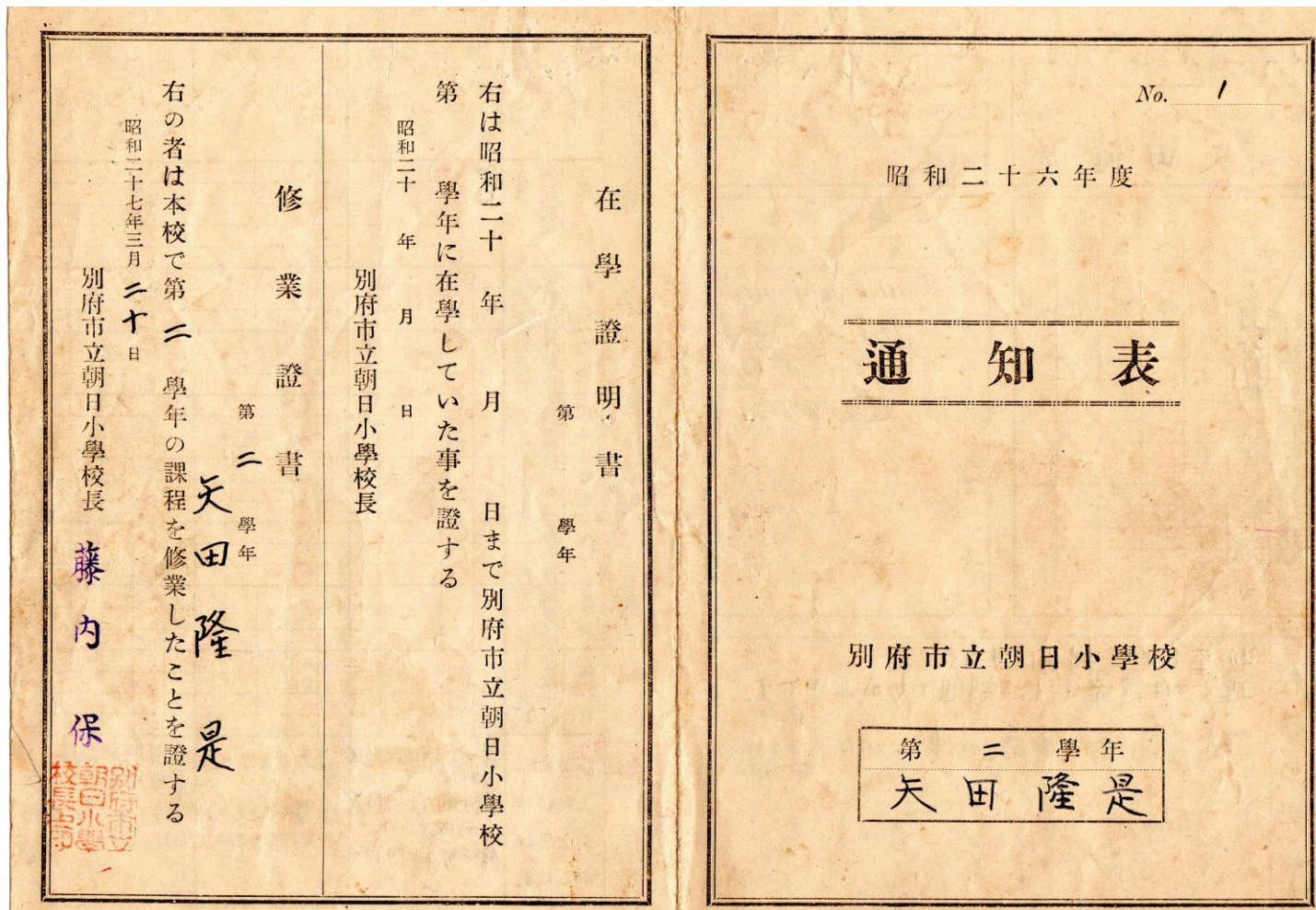
右は校内マラソン大会において頭書の成績を収めたので賞します

昭和三十五年二月二十三日

大分県立大分工業高等学校長

泰平宮治





校長	藤内保
担任	平幸久
児童	天田隆是

	1	2	3
担任			
保護者			

出欠状況						
事項	出席日数	病欠欠席	事故欠席	遅刻	早引	忌引
4月	22					
5月	25					
6月	19					
7月	18					
8月						
9月	22	2				
10月	25	1				
11月	20					
12月	20					
1月	25	1				
2月	24	1				
3月	17					
計	231	5				

身体の記録			
検査月	4月	12月	3月
身長	111.6 ^{cm}	113.8 ^{cm}	115.4 ^{cm}
体重	19.3 ^{kg}	20.0 ^{kg}	20.6 ^{kg}
胸圍	61.0 ^{cm}	61.0 ^{cm}	63.0 ^{cm}
(フヘルタリン) 反応判定	陰性、疑陽性、陽性		
疾病及び異常			

行動の記録

物事を正しく判断します。
 理くつは違者です。計重工夫が上手です
 7.208
 計重工夫に対する実践が伴うようになってきました。
 12.258

天田くん
 くん よいよいになります

1951年 S.26

学期	第一學期					第二學期					第三學期					
	最もすぐる	すぐる	普通	やや劣る	劣る	最もすぐる	すぐる	普通	やや劣る	劣る	最もすぐる	すぐる	普通	やや劣る	劣る	
學 習 の 記 録	國語	聞話	○	○												
		読書	○	○												
		作文	○	○												
	社会	理解	○	○												
		態度	○	○												
	算数	理解	○	○												
		態度	○	○												
	理科	理解	○	○												
		態度	○	○												
	音楽	鑑賞														
		表現														
	圖工	理解	○	○												
		態度	○	○												
	家庭	理解														
		態度														
体育	理解	○	○													
	態度	○	○													
學習指導	上特に必要と思われる事項	第一学期はよく勉強しました 衛生的な習慣を形成することに 努力を続けて下					発表力がありの ましい。 学習が一段とま いりになりました。					学習態度良好 素質豊かによく 努力し成績全般 的に良好				

校長	藤 内 保
擔任	佐野 二枝
児童	矢田 隆是

検 印			
	1	2	3
擔任			
保護者			

出 欠 状 況						
事項	出席日数	病氣欠席	事故欠席	遅刻	早引	忌引
4月	20					
5月	25					
6月	23					
7月	17					
8月						
9月	25					
10月	23	1				
11月	24	1				
12月	20					
1月	20					
2月	24					
3月	20	1				
計	241	3				

身 体 の 記 録			
検査月	4 月	9 月	1 月
身長	116.2 ^{cm}	118.4 ^{cm}	120.2 ^{cm}
体重	20.2 ^{kg}	21.8 ^{kg}	22.7 ^{kg}
胸 圍	61.0 ^{cm}	63.0 ^{cm}	63.0 ^{cm}
(ツメルクリン) 反應判定	陰性、 <u>疑陽性</u> 、陽性		
疾病及び異常			

第一学期
 行動の記録
 第一学期
 運動競技面をかく
 快笑でよろしく
 級友仲向りも人話あり
 親しまれて、この時々
 我儘を出しけんかも
 して、しかるに全体的に
 しっかりとした健全な赤み
 を帯びている。
 おとふしになったりして
 しまつた。その代り
 授業中の発表はよく
 た。称にあらう。と云々
 快活さが見えぬふふふ
 んふふた。及面歩みも
 ほとんども見受けられ
 級友とありそ、事は

學 習 記 録	學 期 評 價	第一學期					第二學期					第三學期					
		最	す	普	や	劣	最	す	普	や	劣	最	す	普	や	劣	
國語	聞話	○	○														
國語	読書	○	○														
國語	作文	○	○														
社會	理解	○	○														
社會	態度	○	○														
社會	技能	○	○														
算數	理解	○	○														
算數	態度	○	○														
算數	技能	○	○														
理科	理解	○	○														
理科	態度	○	○														
理科	能力	○	○														
音樂	鑑賞	○	○														
音樂	表現	○	○														
音樂	理解	○	○														
圖工	鑑賞	○	○														
圖工	表現	○	○														
圖工	理解	○	○														
家庭	理解	/															
家庭	態度	/															
家庭	技能	/															
體育	理解	○	○														
體育	態度	○	○														
體育	技能	○	○														
學習指導	上特	良好である。															
學習指導	要思	全体的に見て。															
學習指導	要思	全体的に見て。															
學習指導	要思	全体的に見て。															
學習指導	要思	全体的に見て。															

校長	藤内保
担任	福村ノブ
児童	矢田隆是

検印	1	2	3
担任			
保護者			

出欠状況						
事項	出席日数	病欠欠席	事故欠席	遅刻	早引	忌引
4月	21					
5月	22					
6月	24					
7月	16					
8月						
9月	24					
10月	24					
11月	24					
12月	21					
1月	16					
2月	24					
3月	21					
計	237					

身体の記録			
検査月	4月	9月	1月
身長	125.5 Cm	128.8 Cm	129.2 Cm
体重	23.4 kg	.	25.8 kg
胸囲	64.5 Cm	69.0 Cm	69.0 Cm
(ツベルクリン) 反応判定	陰性、疑陽性、 陽性		
疾病及び異常	両側扁桃線肥大		

行動の記録
 好友関係に於ても人望あり、他の児童の模範となつて
 いる 態度も明るく 指導力もある、然し幾分礼
 儀正しくない面が見受けられる(特に教師との接
 触に於て) 注意願います。29.7.20
 明朗快活率直で良い、もう少し積極的に行動して良い
 と思います。29.12.24
 毎学期各に向上に、今では組の中心となるべき存
 在におかれ、皆の者から親われている。30.3.25

学期	第一学期					第二学期					第三学期				
	最もすぐれている	すぐれている	普通	やや劣つ	劣つてゐる	最もすぐれている	すぐれている	普通	やや劣つ	劣つてゐる	最もすぐれている	すぐれている	普通	やや劣つ	劣つてゐる
学 習 の 記 録	国語	聞く													
	国語	話す													
	国語	読む													
	国語	書く													
	社会	理解態度													
	社会	技能													
	算数	理解態度													
	算数	技能													
	理科	理解態度													
	理科	能力													
	音楽	鑑賞													
	音楽	表現													
	図工	鑑賞													
	図工	表現													
	家庭	理解態度													
家庭	技能														
体育	理解態度														
体育	技能														
学習指導	各学科とも熱心に学習してきました。学期以後も増々努力してやる事を希望致します。					常に真面目に学習して、申し分ありません。ノート、下し、授業中、何事にも積極の首位を争つてゐます。					五年間というものは、正しい信念のもとに、常に努力し、良い成績を挙げ、できたことは大褒賞をばい、進んでほしいことです。				

校長	有田武夫
担任	相良守利
児童	矢田隆是

	検	印	
	1	2	3
担任			
保護者			

出欠状況						
事項	出席日数	病欠欠席	事故欠席	遅刻	早引	忌引
4月	21					
5月	22					
6月	25					
7月	17					
8月						
9月	25					
10月	26					
11月	23					
12月	21					
1月	19					
2月	24					
3月	20					
計	243					

身体記録			
検査月	4月	9月	1月
身長	130.4 C m	132.6 C m	133.8 C m
体重	28.0 kg	29.0 kg	31.0 kg
胸囲	68.0 C m	68.5 C m	71.0 C m
(ツベルクリン) 反応判定	陰性、疑陽性、陽性		
疾病及び異常			

行動の記録

○正しい判断をして、よく組をリードしているが行動面についても、他の者をぐんぐん指導する力がほしい。友達への信頼があるので、常に全体的のことを考え、自分ではいやなこと、きらいな江印でも率先してやってみようにならなければならぬ!

○学校、学級における自己の地位を充分に認識して、自分の行動が他の者に如何なる影響を与えるかを考え、常に正しい方向へと導いて行くことが大切である。

○授業中自分にあてられると、非常にここにこして大変気持ちよい。判断はよくするが、行動する前にちょっと考える、よゆうがほしい。

学期	第一学期					第二学期					第三学期					
	優れている	普通	やや劣る	劣っている	劣る	優れている	普通	やや劣る	劣っている	劣る	優れている	普通	やや劣る	劣っている	劣る	
学 習 の 記 録	国語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	算数	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	理科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	音楽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	図工	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	家庭	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	体育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	学習指導	非常に努力型で、こつこつやっているが、自分から問題をみつめて、解決研究するようになることよい。					しっかりした学習意欲ができて、自分から進んで問題をみつめて解決する態度が望ましい。					学習態度も落ちつき身につけてきました。この習慣をくずさずに進めよう。				
	上特に必要なと思われる事項															

No.

3

昭和31年度

通知表

別府市立朝日中学校

第 1 学年 2 組

矢田隆是

中学校1年

1956年 S.31

学校長	國 東 正 路				学級主任	矢 島 隆 男			生徒	No. 3 矢 田 隆 是																							
学 習 の 記 録 (評定は5段階に分け5、4、3、2、1であらわす)																																	
教 科	必 修 教 科									選 択 教 科																							
	国 語	習 字	社 会	数 学	理 科	音 楽	図 画・工 作	保 健 体 育	職 業 家 庭	外 国 語(英)	職 業 家 庭																						
評 定	1	4	4	5	4	5	2	4	5	3	5																						
	2	4	4	5	4	5	2	4	5	4	5																						
	3	5	4	5	5	3	4	5	3	5																							
所 見	本努力に 人だ けい のて △努力を要する ○空らんぶつう ○よい			言聞読作書 語への関心 識す解文写 ○○ ○○ ○○			社思知技道 会 徳 的 な 判 への 関 心 考 識 能 断 ○○ ○○ ○○			数数論技数 学学理 学 学 学 への 的 的 的 的 的 関 洞 思 関 洞 思 心 察 考 能 意 ○○ ○○ ○○			自論実知原 然理験 観 識 の 応 への 的 的 的 的 的 関 思 技 創 関 思 技 創 心 考 能 解 意 ○○ ○○ ○○			表 鑑 理 現 現 歌 器 創 唱 楽 作 賞 解 ○ ○			表 鑑 理 現 現 描 工 図 画 作 案 賞 解 ○ ○			健 運 理 協 康 動 力 的 安 全 の 技 能 解 度 への 関 心 能 解 度 ○○ ○○ ○○			技 知 能 態 識 度 理 習 慣 能 解 力 慣 ○○ ○○ ○○			外 国 語 へ の 興 味 関 心 く ・ 話 す 解 方 ○○ ○○ ○○			技 知 能 態 識 度 理 習 慣 能 解 力 慣 ○○ ○○ ○○		

行 動 の 記 録 ABC...指導を要する よい	評 価	A	B	C
	自 主 性	○		
	正 義 感	○		
	責 任 感	○		
	根 気 強 さ		○	
	健 康 安 全 の 習 慣	○		
	礼 儀	○		
	協 調 性	○		
	指 導 性	○		
	公 共 心		○	

学 習 ・ 行 動 ・ そ の 他 の 連 絡 事 項

一 学 期 よく努力している
音楽が大好きです。

二 学 期 責任感が強く指導力があります。
音楽を勉強して下さい。

三 学 期 期末にかけてぐっと伸びた様です。

身 体 の 記 録 (4月)	
身 長	135.9 cm
体 重	32.6 Kg
胸 囲	69.5 cm
視 力	右(1.5) 左(1.5)
う 歯	① 無
ツ氏反応	⑤ 疑陽 陰 陽 転
疾 病 及 異 常	

出 欠 席 記 録						
事 項	学 期	1	2	3	計	
出 校 すべき 日 数		87	92	65	244	
出 席 日 数		87	92	58	237	
缺 席 事 故				7	7	
遅 刻						
早 引						
忌 引						
出 校 停 止						
検 査 印	1 学 期		2 学 期		学 年	
	保 護 者					

No.

4

昭和32年度

通知表

別府市立朝日中学校

生徒

第2学年3組

矢田隆是

校長

立川武夫

担任

三枝幹男

学習・行動その他の連絡事項

1

数学の成績をあげることに、
試験の時は最後まで真剣に考えること。

2

自分より成績が上の者がまだいた
多いことを自覚すること
冗談を言う時と場所を考えたい
しる時はしる人前であることす

学年末

2. 二学期にくらべて学習
99 態度だいぶ良くなりました
・実力養成

通知表の見かた

1. 学習の記録の「評定」欄は各教科の成績について、特にすぐれているものが5（約1割）特におくれているものが1（約1割）、3は普通でもつとも多く（約4割）、4と2とはその中間にあるもので人数も中間（約2割ずつ）です。
また「所見」欄に記入された○は、その生徒としてすぐれていること、△は努力を要することを示しています。
2. 行動の記録の「評定」欄のうち「自主性から公共心」までの評定で、Aは特にすぐれたもの、Bは普通、Cは特に指導を要することを示します。
また「判断の傾向、情緒の傾向」について○はすぐれていること、△は努力を要することを示しています。それを記入してないところは「普通」であることを示します。

本校において第2学年の
課程を修了したことを証す
る

修了証

昭和三十三年三月 26 日

別府市立朝日中学校校長

立川武夫



生徒氏名	学 習 の 記 録																		
	教 科	国 語		社 会		数 学		理 科		音 楽		図 画 工 作		保 健 体 育		職 業 家 庭		選 択 教 科	
		評 定	I	習 字	I	技 術	I	技 術	I	理 論	I	鑑 賞	I	鑑 賞	I	理 論	I	態 度	外 国 語 (英 語)
天 田 隆 是	所 見 の 内 容	I	5	3	5	4	5	4	3	5	4	3	5	5	5	5	5	5	
		II	4	3	5	4	5	4	5	4	4	5	5	5	5	5	5	5	
		学 年 末	5	4	5	4	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
所 見	I	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	II	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	学 年 末	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

行 動 の 記 録										出 欠 の 記 録							身 体 検 査 の 記 録												
項 目	自 主 性	正 義 感	責 任 感	根 拠 強 さ	健 康 安 全 の 習 慣	礼 儀 性	協 調 性	指 導 性	公 共 心	判 断 の 傾 向			情 緒 の 傾 向				事 項	出 席 日 数	病 気	事 故	遅 刻	早 引	忌 引	出 停	年 令	14 才	色 神	な し	
										判 断 の 公 正 さ	慎 重 さ	合 理 性	客 観 性	情 緒 の 安 定	審 美 感	明 朗 性													月
評 定	I	A	B	B	A	A	B	A	A	B	○	○	○	○	4	14	・	・	・	・	・	・	・	14 才	なし	なし	○	正 難	
	II	A	B	B	A	A	B	B	B	○	○	○	○	5	26	・	・	・	・	・	・	・	・	14 才	なし	なし	○	正 難	
	学 年 末	A	B	B	A	A	B	B	B	○	○	○	○	6	19	・	・	・	・	・	・	・	・	14 才	なし	なし	+	擬 除	
認 印	主 任 保 護 者											7	15	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	14 才	なし	なし	+	擬 除	
												8	4	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	14 才	なし	なし	+	擬 除	
												9	23	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	14 才	なし	なし	+	擬 除	
										10	26	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	14 才	なし	なし	+	擬 除			
										11	23	/	・	・	・	・	・	・	・	・	・	14 才	なし	なし	+	擬 除			
										12	23	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	14 才	なし	なし	+	擬 除			
										1	17	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	14 才	なし	なし	+	擬 除			
										2	24	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	14 才	なし	なし	+	擬 除			
										3	21	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	14 才	なし	なし	+	擬 除			
										計	236	/	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	14 才	なし	なし	+	擬 除		

No. /

昭和33年度

通知表

別府市立朝日中学校

生徒

才3学年3組
天田隆是

校長

立川武夫

担任

三枝幹男

学習・行動その他の連絡事項

1 数学に力を入れること、
実力を養いましょう。

2 落ち着いて自己の前途に進む
と同時に自主的に実力をつけ
ることです。

学年末 常に自分以上に努力をいっ
者のあることを忘れないよう、
素直な気持ちで努力すること。

通知表の見かた

1. 学習の記録の「評定」欄は各教科の成績について、特にすぐれているものが5（約1割）特別におくれているものが1（約1割）、3は普通でもつとも多く（約4割）、4と2とはその中間にあるもので人数も中間（約2割づつ）です。また「所見」欄に記入された○は、その生徒としてすぐれていること、△は努力を要することを示しています。
2. 行動の記録の「評定」欄のうち「自主性から公共心」までの評定で、Aは特にすぐれたもの、Bは普通、Cは特に指導を要することを示します。また「判断の傾向、情緒の傾向」について○はすぐれていること、△は努力を要することを示しています。それを記入していないところは「普通」であることを示します。

修了証
本校において第3学年の
課程を修了したことを証す
る

昭和三十四年三月 7 日

別府市立朝日中学校校長

立川武夫



生徒氏名 天田隆足	学 習 の 記 録																																																				
	教 科	国 語	習 字	社 会	数 学	理 科	音 楽	図 画 工 作	保 健 体 育	職 業 家 庭	選 択 教 科																																										
		評 定	I	5	5	4	5	4	4	5	4	外国語(英語) 職業・家庭																																									
	II	5	5	5	5	5	4	5	4	5																																											
	学 年 末	5	5	5	5	5	4	5	5	5																																											
所 見 の 内 容	言 語 へ の 関 心 意 識	聞 く ・ 話 す	読 む	作 文 写 真	社 会 へ の 関 心	思 考 能 力	知 識 能 力	技 術 的 な 判 断 能 力	道 徳 的 な 判 断 能 力	数 学 的 な 洞 察 力	論 理 的 な 思 考 能 力	技 術 的 な 思 考 能 力	数 学 的 な 応 用 創 意 力	自 然 へ の 関 心	論 理 的 な 思 考 能 力	実 験 観 察 の 技 能	知 識 ・ 理 解 能 力	原 理 の 応 用 創 意 力	表 現 能 力	鑑 賞 能 力	歌 器 創 作 賞 解 能 力	表 現 能 力	鑑 賞 能 力	理 解 能 力	健 康 安 全 へ の 関 心	運 動 の 技 能	理 解 能 力	協 力 的 な 態 度	技 術 的 な 態 度	知 識 ・ 理 解 能 力	能 力	態 度 ・ 習 慣 能 力	外 国 語 へ の 興 味 関 心	聞 く ・ 話 す	読 む	書 き 方 能 力	技 術 的 な 理 解 能 力	知 識 ・ 理 解 能 力	態 度 ・ 習 慣 能 力														
所 見	I																																																				
	II																																																				
	学 年 末																																																				

行 動 の 記 録	
項	自 正 責 根 健 礼 協 指 公 主 義 任 氣 安 全 調 導 共 性 感 感 さ 儀 性 性 心
目	判断の傾向 判 慎 合 客 情 断 重 理 観 の の 公 正 さ さ 性 性 安 定 感
評 定	明 朗 性 審 美 感 情 緒 の 安 定 性 密 着 性 客 観 性 理 智 性 合 理 性 慎 重 性 判 断 の 公 正 性
I	
II	
学 年 末	A A A A B A A A B 〇 〇 〇 〇

出 欠 の 記 録							
事 項	出 席 日 数	病 氣	事 故	遅 刻	早 引	忌 引	出 停
月							
4	19	・	・	・	・	・	・
5	23	/	・	・	・	・	・
6	25	・	・	・	・	・	・
7	17	・	・	・	・	・	・
8							
9	25	・	・	・	・	・	・
10	27	・	・	・	・	・	・
11	21	2	・	・	・	・	・
12	22	・	・	・	・	・	・
計	229	3					

身 体 検 査 の 記 録				
年 令	15 才	色 神		
検 査 年 月 日	昭和 33 年 4 月 29 日	聴 右	正	難
身 長	150.8 cm	力 左	正	難
体 重	42.5 kg	未 処 理 歯		
胸 囲	77. cm	ツベルクソン反	陽	擬 陰
坐 高	80.2 cm	疾 病		
栄 養	可・要注意	異 常		
視 力	右 2.0 ()			
	左 1.5 ()			
認 印	主 任	三枝	三枝	学 年 末
	保 護 者	(実)	(実)	

昭和34年度

通知表

大分県立大分工業高等学校

機械課程 1 学年 2 組

No. 43

生徒氏名

矢田 隆是

校長	泰平宮治
担任	藤侃治

小学校～高校通知表

高校1年

1959年 S.34

検査年月日	34年5月7日	
年令	16	
身長	158.	cm
体重	50.	Kg
胸囲	84.	cm
栄養状態	可	
脊柱	正	
視力	右	1.5 (1.0)
	左	1.5 (1.0)
聴力	右	正
	左	正
未処置う歯	1	
ツベルクリン反応		
X線検査		
寄生虫検査		
備考		

一学期	回数	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
	総点	216					
序列	8/44						
二学期	回数	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
	総点	218	244				
	序列	27	24				

行動の記録	項目	自主性	正義感	責任感	根拠強さ	健康安全の習慣	礼儀	協調性	指導性	公共心	判断の傾向			情緒の傾向		趣味	特技	備考
											判断の公正さ	慎重さ	合理性	客観性	情緒の安定			
評定	1																	備考 自主性から公共心までの評定でAは特にすぐれたもの、Bは普通、Cは指導を要することを示します。判断及び情緒の傾向では○はすぐれていること、△は努力を要することを示します。
	2	B	B	B	B	B	B	B	B	B								
学年		B	B	B	B	B	B	B	B	B								
通信欄	努力の若いが見られます。いすの努力を忘れずには、この子へ続けて下さい。																	

No. 43

学 習 の 記 録	科 目	国 語 甲		人 文 地 理		数 学 I				化 学								
	単 位 数	3		3		4		2(+1)		3								
	評 定	評 定	欠 時 数	評 定	欠 時 数	評 定	欠 時 数	評 定	欠 時 数	評 定	欠 時 数							
	学 期	評 定	欠 時 数	評 定	欠 時 数	評 定	欠 時 数	評 定	欠 時 数	評 定	欠 時 数							
第 1 学 期	55			70				50				60			55			
第 2 学 期	70			50				60				65			55			
学 年 末	60			50				60	2			60			55			
所 見 の 内 容	国語の関心 読解・話す賞文		社会への関心		知識・道徳的 判断力		数学的 論理的 思考力		数学的 論理的 思考力		数学的 論理的 思考力		自然への関心		原理の 応用 創意		実験・観察の 技能	
所 見	第一学期																	
	第二学期																	
	学年末																	
備 考	1. 評定の欄は100点法で示し、40点未満は不合格点で、各科目の平均点は60点前後で 2. 所見の欄に記入された○はその生徒としてすぐれていること、△は努力を要すること 3. 出欠の記録のうち、出校しなかつた日数の中の「その他」とは学校教育法第26条に																	

小学校～高校通知表

高校1年

1960年 S.35

体 育	保 健	英 語	実 習	製 図	機械工作	機械材料	原 動 機	応用力学	概 評	出 欠 の 記 録							認 担		
										出 席 日 数	出 席 日 数	欠 席 日 数	出 校 し な かつ た 日 数	遅 刻 回 数	欠 課 時 数	早 退 回 数			
2	1	4	4	2	2	2	2(-1)	2	総 点	平 均	席 次	出 席 日 数	出 席 日 数	欠 席 日 数	出 校 し な かつ た 日 数	遅 刻 回 数	欠 課 時 数	早 退 回 数	1
60	70	75	70	65	65	55	55	80	885	63	19	83	83						2
65	75	85	70	75	60	75	75	80	960	69	9	95	95			4	1	1	学年末
65	75	80	70	70	65	65	60	80	915	65	15	205	205			9		2	学年末
目 態 技	理 態 技	外 興 聞 読 書	知 技 適 態	知 技 適 態	知 技 適 態	知 技 適 態	知 技 適 態	知 技 適 態	特 別 教 育 活 動 の 記 録							保 護 者			
解 度 能	解 度 能	国 語 関 心	理 能 解 能 力 度	理 能 解 能 力 度	理 能 解 能 力 度	理 能 解 能 力 度	理 能 解 能 力 度	理 能 解 能 力 度	ホ ー ム ル ー ム								1		
									生 徒 会							2			
									ク ラ ブ 活 動							学年末			
を 示 し、記 入 し て い な い の は 普 通 で あ る こ と を 示 し ま す。 り 出 席 停 止 を 命 じ た 日 数、天 災 等 に よ り 出 席 し な かつ た 日 数 で す。							本 合 格 単 位 数 (26)		本 年 度 (0)		入 学 以 来 の 履 習 単 位 数 合 計 (26)								

昭和35年度

通知表

大分県立大分工業高等学校

機械課程2学年1組

No. 41

生徒名

矢田隆是

校長	池田利明
担任	安藤秀一

小学校～高校通知表

高校2年

1960年 S.35

検査年月日	35年5月14日
年令	17
身長	160.0 cm
体重	53.0 kg
脚囲	25.0 cm
栄養状態	正
脊柱	正
視力	右 (1.5) 左 (1.2)
聴力	右 正 左 正
未処置う歯	1
ソベルグリン反応	12x12 +
X線検査	異常なし
寄生虫検査	
備考	

一学期	回数	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
	総点	152	258	256		
二期	序列	264	106	99		
		39/45	17/45			
二学期	回数	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
	総点					
	序列					

行動の記録	項目	自主性	正義感	責任感	根気強さ	健康安全の習儀	礼儀	協調性	指導性	公共心	判断の傾向				情緒の傾向		興味	特技
											判断の正しさ	慎重さ	合理性	客観性	情緒の安定	審美感		
評定	1	B	B	B	B	B	B	B	B	B								
	2	A	B	B	B	B	B	B	B	B								
学年		A	B	B	B	B	B	B	B	B								
通信欄	少しづつですが...向上の傾向が見え、																	

学 習 の 記 録	科 目	国 語 甲	世 界 史	応 用 数 学	物 理	体 育	
	単 位 数	3	3	3	3	2	
	学 期	評 定	評 定	評 定	評 定	評 定	評 定
		欠 時 数	欠 時 数	欠 時 数	欠 時 数	欠 時 数	欠 時 数
	第 1 学 期	60	60	65	60	65	
	第 2 学 期	60	70	60	70	65	
	学 年 末	70	65	75	65	65	
所 見 の 内 容	国 語 読 書 活 動 関 心 考 察	社 会 知 識 関 心 考 察	道 徳 的 判 断 能 力 考 察	数 学 的 論 理 的 思 考 能 力 考 察	理 論 的 思 考 能 力 考 察	外 語 読 書 活 動 関 心 考 察	
所 見	第 一 学 期 第 二 学 期 学 年 末						
備 考	1. 評定の欄は100点法で示し、40点未満は不合格点で、各科目の平均点は60点前後で 2. 所見の欄に記入された○はその生徒としてすぐれていること、△は努力を要する 3. 出欠の記録のうち、出校しなかつた日数の中の「その他」とは学校教育法第26条に						

小学校～高校通知表

高校2年

保 健	英 語	実 習	製 図	機 械 設 計	機 械 工 作	原 動 機	応 用 力 学	電 気 一 般	概 評	出 欠 の 記 録							認
1	4	4	2	2	2	3	2	2	総 点 平 均 席 次	出 席 日 数 出 席 日 数 欠 席 日 数 病 事 忌 引 病 事 故 引 他	84 84	84	12	早 退 回 数	担 任		
評 定	評 定	評 定	評 定	評 定	評 定	評 定	評 定	評 定								評 定	評 定
65	60	70	65	45	60	55	70	75	875	63	25	84	84	12	1		
65	75	75	70	60	60	75	65	45	915	65	21	93	93	10	2		
60	70	70	65	70	65	60	75	55	930	66	22	244	243	25	学 年 末		
知 技 適 用 能 力 度	知 技 適 用 能 力 度	知 技 適 用 能 力 度	知 技 適 用 能 力 度	知 技 適 用 能 力 度	知 技 適 用 能 力 度	知 技 適 用 能 力 度	知 技 適 用 能 力 度	知 技 適 用 能 力 度	特 別 教 育 活 動 の 記 録							保 護 者	
									ホ ー ム ル ー ム						1		
									生 徒 会						2		
									ク ラ ブ 活 動						学 年 末		
本 年 度 合 格 単 位 数 (36)						本 年 度 不 合 格 単 位 数 ()			入 学 以 来 の 履 習 単 位 数 合 計 (72)								

学 習 の 記 録	科 目	国 語 甲	社 会	応用数学	体 育	英 語					
	単 位 数	3	3	2	3	3					
	評 定 学 期	評 定	欠時 数	評 定	欠時 数	評 定	欠時 数				
		第 1 学 期	70	1	60	2	85	1	70	1	65
	第 2 学 期	75	1	55	1	55		70	1	75	1
	学 年 末	70	4	60	3	70	1	70	3	75	3
所 見 の 内 容	国 語 読 書 の 関 心	作 文 の 賞 文	社 会 関 心	道 徳 的 判 断 の 能 力	数 学 的 論 理 的 思 考 の 能 力	数 学 的 応 用 ・ 創 意 の 能 力	理 解 度	技 術 的 能 力	外 語 関 心	読 書 活 動	書 き 方 の 解 方
所 見 才一学期 才二学期 学年末											
備 考	1. 評定の欄は100点法で示し、40点未満は不合格点で、各科目の平均点は60点前後で 2. 所見の欄に記入された○はその生徒としてすぐれていること、△は努力を要する 3. 出欠の記録のうち、出校しなかつた日数の中の「その他」とは学校教育法第26条に										

小学校～高校通知表

高校3年

1962年 S.37

実 習	製 図	機 械 設 計	機 械 工 作	応 用 力 学	工 場 経 営	原 動 機	機 械 材 料	概 評	出 欠 の 記 録						認 担											
									評 定	欠時 数	評 定	欠時 数	評 定	欠時 数		評 定	欠時 数	評 定	欠時 数	出 席 す べ き 日 数	出 席 日 数	欠 席 日 数	出 校 し な か つ た 日 数	遅 刻 回 数	欠 課 時 数	早 退 回 数
70		70	4	90	1	45		55	1	60		70		55	2	85	67	18	83	82	1		6	3		
70		60	3	85		60		55		70		65	1	60	3	85	66	19	83	82	1			13	3	
70		65	7	85	1	60		65	1	65		65	5			85	68	19	227	223	4			28	9	
知 技 適 態	知 技 適 態	知 技 適 態	知 技 適 態	知 技 適 態	知 技 適 態	知 技 適 態	知 技 適 態	知 技 適 態	特 別 教 育 活 動 の 記 録										保 護 者							
識 理 解 能 力 度	識 理 解 能 力 度	識 理 解 能 力 度	識 理 解 能 力 度	識 理 解 能 力 度	識 理 解 能 力 度	識 理 解 能 力 度	識 理 解 能 力 度	識 理 解 能 力 度	ホ ー ム ル ー ム																	
									生 徒 会																	
									ク ラ ブ 活 動	機 械 工 作 部 自 動 車 部																
本 年 度 (36)								本 年 度 ()								入 学 以 来 の 履 習 単 位 数 合 計 (108)										

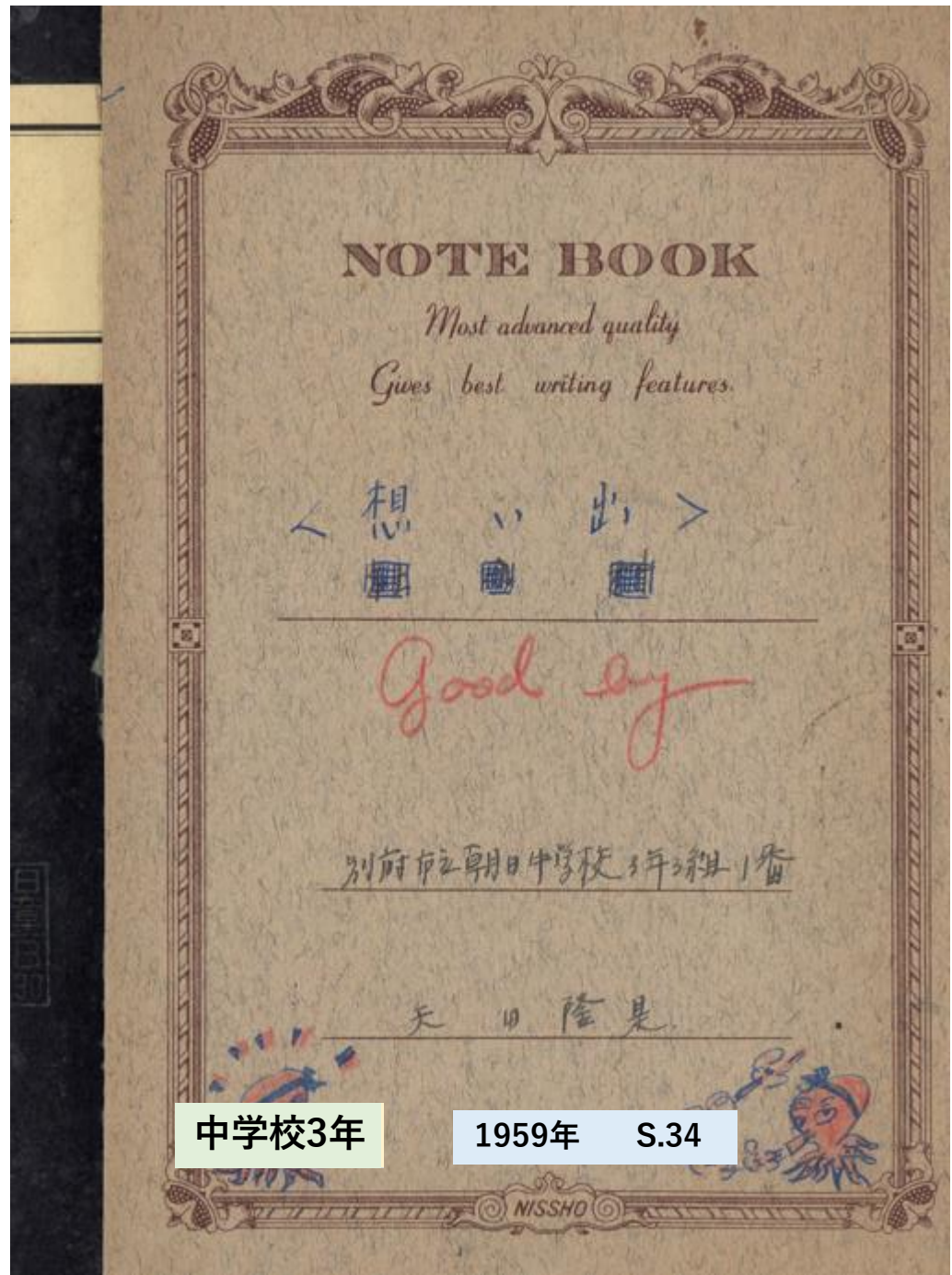
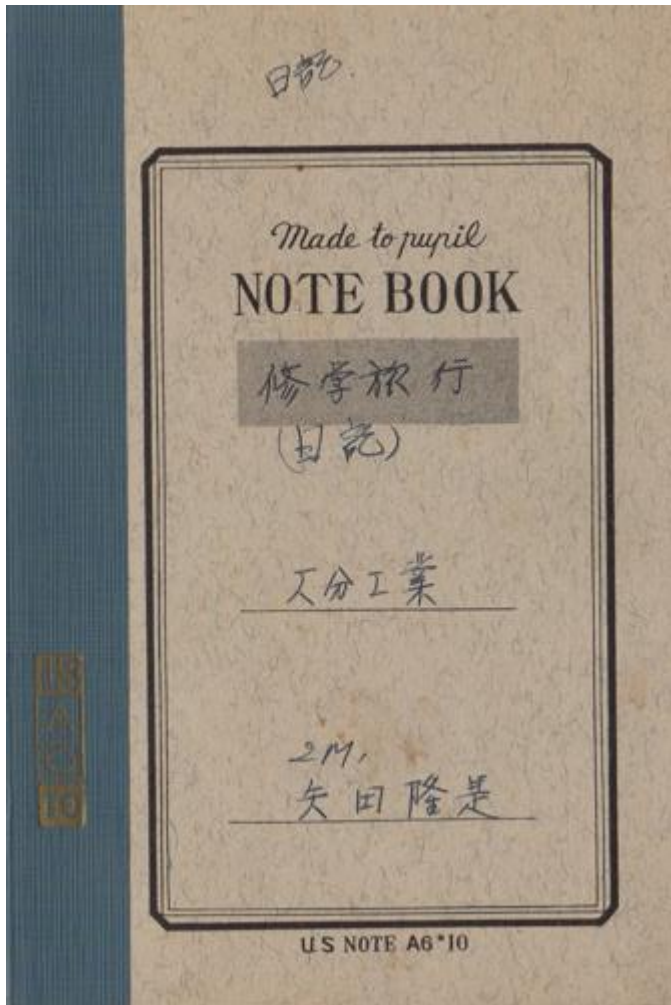
とを、記入していないのは普通であることを示します。
 欠席停止を命じた日数、天災等により出席しなかつた日数です。

高校 修学旅行

高校2年

1960年

S.35



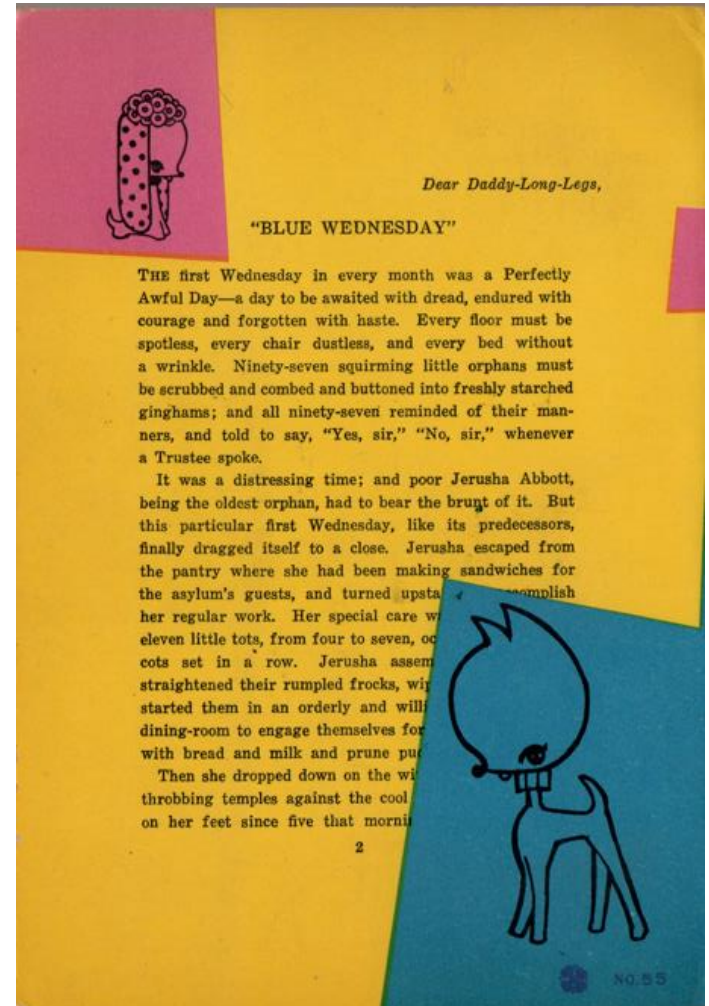
中学校3年

1959年

S.34

中学卒業時 の サイン帳 (友人のことば)

中学卒業時 の サイン帳 (友人のことば)



中学卒業時のサイン帳 (友人のことば)

- | | | | |
|-----------|----------|------------|-----------|
| 1. 首藤誓 | 21. 池辺末喜 | 1. 安倍節子 | 22. 草牧定子 |
| 2. 工藤英信 | 22. 折原 勲 | 2. 保月昌子 | 23. 大野勝子 |
| 3. 荒金眞臣 | 23. | 3. 古賀昭代 | 24. 松木久美子 |
| 4. 本田信之 | 24. | 4. 安波以津子 | 25. 豊島光代 |
| 5. 中原拓夫 | 25. | 5. 秋元寛子 | 26. 大村久子 |
| 6. 平川敏博 | 26. | 6. 安部タカネ | 27. 榎本典子 |
| 7. 富田清次郎 | | 7. 石田節子 | 28. 藤永きよみ |
| 8. 永野茂喜 | | 8. 田原征子 | 29. 内田敦子 |
| 9. 河野日出海 | | 9. 大林捷子 | 30. 三ヶ尻澄子 |
| 10. 瀬尾克己 | | 10. 糸長きよみ | 31. 有働祝代 |
| 11. 毛利恒雄 | | 11. 川上田鶴子 | 32. |
| 12. 内藤純行 | | 12. 中山麗子 | 33. |
| 13. 高本昌貞 | | 13. 松山理津子 | 34. |
| 14. 藤川寛治 | | 14. 麻生美知子 | 35. |
| 15. 大野忠裕 | | 15. 安部貴美子 | |
| 16. 内藤弘隆 | | 16. 湖東クニエ | |
| 17. 渡辺吉五郎 | | 17. 寺本百合子 | |
| 18. 永野善実 | | 18. 熊倉みち子 | |
| 19. 渡辺周治 | | 19. 安波和子 | |
| 20. 越智建雄 | | 20. 後藤順子 | |
| | | 21. 江の尻アサ子 | |

矢田さんへ

成功の栄冠にあこがれること
けし加むべきではない。ただ栄
冠のけにあこがれ、その日を空
費することとがめられるべきが
ある。ー・ポアンカレ。ー
入試も目の前にせまってきた。
日頃の努力を十分に発揮して頑張
って下さい。そうすれば成功の栄冠は
あがたの頭上に輝く事を私は確
信し、又お祈りしております。
がんばりついでにーお元気が
又会える日を葉一々にして負を閉
じます。

昭和三十四年 春

安佐節子

中学卒業時のサイン帳 (友人のことは)

1959年 S.34

三月四日

寺本百合子

中学生生活も最後の日をむかえり
頃になつてしまいましたか。今更ながら
早い時の流れに言葉もありません
矢田さんは二年生の時から執行委員
などをしてとても人希も高く、人から好かれ
ていましたね。どうせその立派な精神と
身体を持ちつづけて人になつて下さい。
矢田さんの輝やかな人生を夢みながら
三年間の終止を打ちます。

“ 隆是さん ”

本当に月日がたつのは早いものですね

私一年の頃は一番小さかったけど

今では前からの十五、六番位ですよ（三年

女子全部で……）

私、自命ではいばそつちがつもりがんですが

賢方からのそういわれたら、だからいばそ

いたんでしう、でも高校に行くには

皆からの好かれ、親しまれる人になら様

努力致します

貴方もそういう人になるようばかり

お祈りします

——熊倉みち子——



Dear

中学卒業時のサイン帳（友人のことば）

1959年 S.34

灰田君へ

心に太陽

ふかむるに

歌を

昭和三十一年

保月昌子

“ 矢田さんへ ”

月日りの為のはほんとうに
早いものですね。

私達の入学してからの

はや九年間もすんびしきいきました。

あなたに「たこ」と云われることを聞いて

とこ加にこいりかなーと思っよく見てみると

すい顔の真赤には子から白と思っきました。

しかし卒業したらう学校であなた顔をもう見える

ことけびきませんね。のした本には合うことも

ありましよう。

高校に入学したら健康に勉強に

より一層の努力をして下さい。

34. 3. 4.

安坂和子

矢田さんへ
奴カカは天才

にまやゝる”

この言葉もあるように
大分工業へ行かれたも
奴カカをしく下さい
そぐ良い人面になつて
祈・合格・幸・健康

昭和三十四年三月五日

古賀昭代

中学卒業時のサイン帳 (友人のことば)

1959年 S.34

矢田さんへ

月日がたつのは早いもので、

もう九十歳する存んで……

でも私達はこれからが大事な時です

貴方は貴方の目的に

私は私の目的に向って

とあゝ、これから新出花をしよう

貴方が今持てる

最大の目的に向って……

今のほがらがさ明るさをめたいね

昭和三十四年

順子

矢田さんへ

勤勉は

成功の親

高校にはいっても

良き人、正しい人に
なつて下さい

昭和三十四年三月五日

安波以津子

中学卒業時のサイン帳（友人のことば）

1959年 S.34

夕子さん
一番前にあ

そいながらよく

人を笑せていた夕子さん

これかともほかにね

おつよこつよいを存おしてね

自分の目的を達成するよう

努力に力を

かき添えてね

別府市鉄輪

三ノ尻アサ子

矢田さん

人生は七転八起

人生に理想をもち

希望をいかに

心をはぐませ

人生の大道を

前進しよう

石田節子

中学卒業時のサイン帳 (友人のことは)

中学卒業時のサイン帳 (友人のことは)

矢田さん

思り出をおおき

三年間もはや夢のように
すきさってしまいましたが、

貴男はほんとうに、

ほかうかす、めいりうす、

比目にかかれましたね、

高校にはりてかとも

皆にすかれる人となさうだ

さい

最後に貴男の

御健康を

あいのりします。

草牧定子



隆足さんへ

ご覧えていますか

十年前、和達百十数人は午を取り
合つて朝日小学校の校門をくぐり、
幼稚園へ入園したので、

その時の和達は学校へ行ける嬉し
さでいっぱいでした

それがもう卒業なんて長、様で
短かたにたれね

貴男は公立の入試を真直にひかえ
勉強に励んでいられると思ひます。

では最後に貴男の

一健康

一幸福

一入試へパスあること

を、べからお祈り致します

市内竹ノ内二班三〇七ノ二

田原征子

1959年 S.34

中学卒業時のサイン帳 (友人のことは)

隆是さんへ

しんぼう強く

そしてやさしかた

貴男とお別れしなくては

ならないのね

でも私達の前途には

大きな一歩——希望が大手を

広げてまわってまよ。一歩一歩

ふればおとほ、のように

送れおしよう

最後に高校に入りますように

祈りのつづきを遺さず

麻生美智子

1959年 S.34

隆是さんへ

卒業というものは憧しいもの
 のでもあり又その反面淋しいものでも
 通い慣れた道も教室も良き友達も
 皆みんなお別れしたくないもの
 卒業後も今までのようにお話しし
 請いに花柄を、此白んお仲良し
 明るい程みよ、社会を作らうじゃ
 ありあせんが

入談にパスしますう心から
 お祈りしますう

誠実と勤勉を友とせよ

Good by
 とも忘れたい!!

千比呂
 (天林)

中学卒業時のサイン帳 (友人のことば)

「ほかからかな」矢田さんへ
御卒業 お目出度う

楽しい三年間も終りにちががさまし
たね、貴女^男は高校にはいつてかとも
いままでのようにはほかからかな

矢田さんであつて下さい

今度の入試には全力を

つとして下さい

最後に貴女^男の御健康と
御幸福をお祈り致します

別府市小倉

大野勝子

合 格 祈 る

矢田さんへ

いつまでも思い出を大切に
貴方ともお別れですわ。

でも今、貴方方の前途に
大きな希望が、大層を
広げて待っていて下さる

いつまでもタコちゃんのこと

失礼ません。

貴方々の健康と御幸福を
お祈りします

糸長き子

中学卒業時のサイン帳 (友人のこぼれ)

矢田さんへ

春は私達を

お力えようとしています

私達はそれに答え

おはたります

昭和三十四年
卒業さ前にして

矢田さん 貴男も

頑張って強く正しく

優い人に

なつて下さい

Mituyo
Toyosima

「矢田さんへ」

卒業御目出度!

貴男と一緒には勉強するのを

後数日ですわね!

その数日を有義義に作らして

さい!

貴男と私との進路は同じですわ

そーい又新しい出発が目の前

に来てますわ

そや出張に逢水ない様に

一生懸命に頑張つて下さいわ

では最後

貴男の幸福を

祈ります

昭和三十四年三月六日

川上夕鶴子

中学卒業時 の サイン帳 (友人のことば)

- M
- | | | | |
|-----------|-----------|------------|------------|
| 1. 首原 聖 | 16. 大野 忠裕 | 1. 安倍 節子 | 16. 後藤 千二 |
| 2. 工藤 英信 | 17. 内藤 弘隆 | 2. 保月 昌子 | 17. 寺本 百合子 |
| 3. 荒金 真臣 | 18. 渡辺 詔郎 | 3. 古賀 昭代 | 18. 慈倉 み子 |
| 4. 本田 信之 | 19. 永野 善美 | 4. 安波 以津子 | 19. 尾波 和子 |
| 5. 中原 拓夫 | 20. 渡辺 周治 | 5. 秋元 寛子 | 20. 後藤 悦子 |
| 6. 平川 敬博 | 21. 越智 建夫 | 6. 安部 加奈 | 21. 江崎 千子 |
| 7. 富田 清次郎 | 22. 池田 未吾 | 7. 石田 節子 | 22. 草坂 定子 |
| 8. 永野 英喜 | 23. 平川 敬博 | 8. 田原 征子 | 23. 大野 勝子 |
| 9. 河野 日出海 | 24. | 9. 下林 根子 | 24. 松本 久美子 |
| 10. 瀬尾 克己 | 25. | 10. 糸長 三子 | 25. 豊島 玄代 |
| 11. 毛利 恒雄 | 26. | 11. 川上 田鶴子 | 26. 大村 久子 |
| 12. 折原 勉 | 27. | 12. 中山 麗子 | 27. 橋本 典子 |
| 13. 内藤 純行 | 28. | 13. 松山 星子 | 28. 藤永 三子 |
| 14. 高本 昌貞 | 29. | 14. 麻生 美智子 | 29. 内田 敬子 |
| 15. 藤川 重治 | 30. | 15. 安部 貴美子 | 30. 三原 澄子 |
| | | | 31. 有田 悦代 |
- 松田 (敬雄)

中学卒業時のサイン帳 (友人のこぼれ)

矢田君へ

卒業おめでとう?

月日のつのは何かに早く夢のようひま

朝中に入学してはや三年……

この想い出多き朝中も去らねば

なほなほい睡かまます。

る母校「朝中」の名を恥かして

なほよう努力して下さい。

ソフマのお元気で

入試合格祈る

大 和 久 子

1959年 S.34

矢田さんへ

少年よ

大志をいだけ

と、う言葉をおぼすに

ソフマ大きな希望と志を胸に

ソフマ一良き道へ進んで下さい

入試時刻とせよ、こまました

全力を尽くして戦ってください

貴男の合格をお祈り致します

中山麗子

中学卒業時のサイン帳 (友人のことは)

矢田さん

御卒業おめでとう

月日のたつたつて本当に早いもので
すね。この間こそ中学校に入学
したように思えるのにな……

でも日かたつのをおしんではいけま
せんわね。おしまなくてもいいように
有意義に過さなくてはね
若い時分頭を便ったほうが
いいんだそうであり。

頑張りますしよ

さようぢやう

橋本興子

中学卒業時のサイン帳 (友人のことは)

矢田さんへ

貴男は大きな
希望を胸にいたさ
良き道え進んでいられる事では
高校入試を目の前には
一生懸命勉強と戦って
めでたく合格なすってくだらう。

最後に

御健康と

御幸福をお祈りして

さようぢやう

星澤子

なめらかなスロープ、おおきく山
 大しく気高いつるみ岳
 あくまで清く青くすんだ
 志高湖

青い空！白い雲
 こんなめいまれた
 自然の中が
 生活、勉強できた私達には
 ！あわせでいたね
 お休を大切に
 藤永きよみ

中学卒業時のサイン帳（友人のことば）

1959年 S.34

矢田さんへ

長い様で短かった三年間が
 夢の珠に過ぎ去ってしまっ
 三年間をふりかえり
 いろいろの思い出があり
 貴男はあと高校入試を
 目指すか？
 日頃の努力を發揮して
 立派な成績でサゴとパス
 では最後に貴男の輝いた
 市健康市幸福をお祈致
 ます

安部タカネ

矢田 さんへ

月日の流るゝ本当に早いものね

桜の花の咲く頃 希望と

夢を持って入学した私達でしたのに

もう卒業するなんて、うその様な
気かします。

卒業って本当に淋しい又つらいもの
ですね

でも淋しい又つらいその反面

私達の新しい人生が待っているの
です。

貴男の目的~~方~~に向って1歩1歩踏み
しめて強く正しく進んで下さいね。

最後に貴男の御健康と御幸福を
心よりお祈りします。

3月7日

ATUKO UTIDA

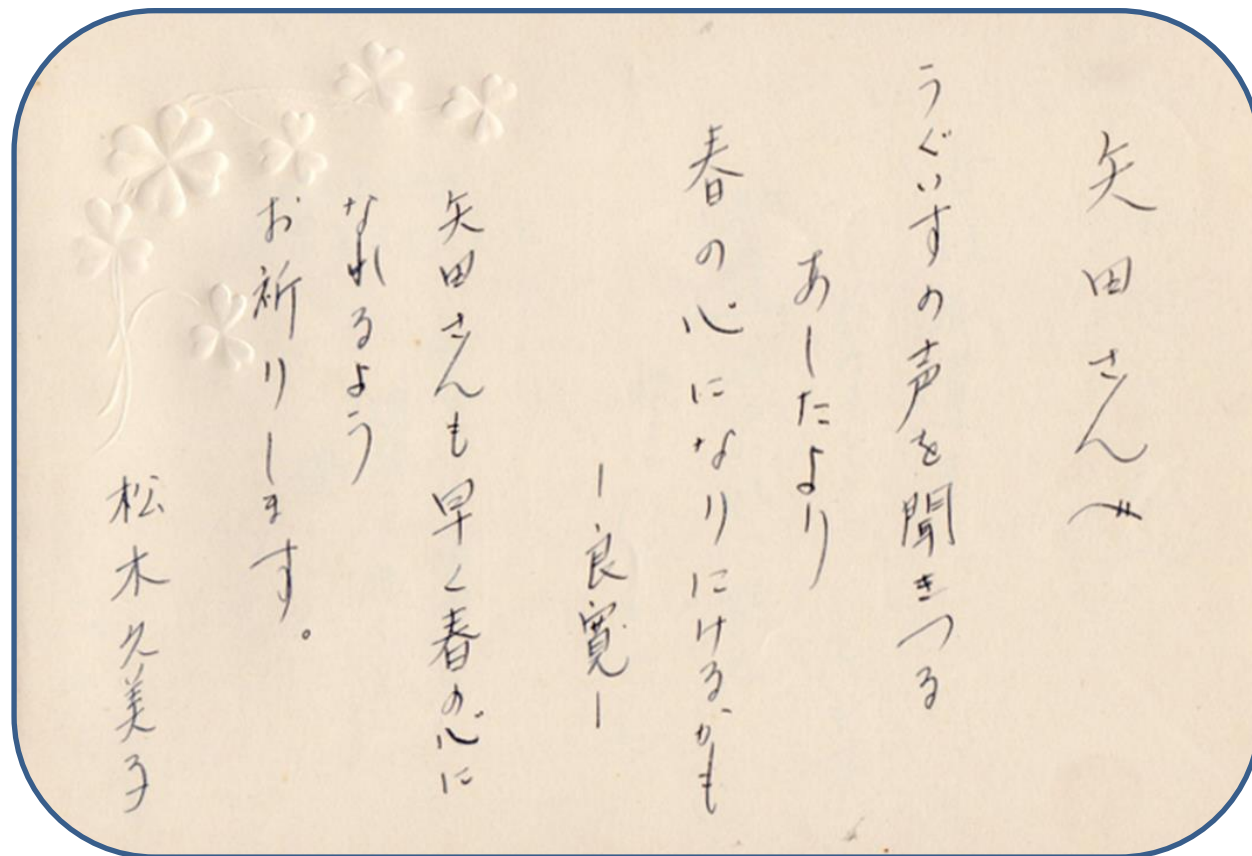
DEAR TAKAYOSI

体
を
大
切
に
す
A合SOUNDをMIND
心よりお祈り
SOUND BODY 致し
昭和34年3月5日(教室にて)
hiroko Akimoto

中学卒業時 の サイン帳 (友人のことば)

1959年 S.34

中学卒業時 の サイン帳 (友人のことば)



「矢田さん、

あれはたしか二年の時

だったかしら。

生徒会の立候補をきめる

時、「なぜ〇〇さんがよいか。」と

聞かれ、赤くなったことが

ありましたね。でも今それが

は楽しい思い出となり

ました。

自己を反省し人間の果す

べき道を突進しましょう。

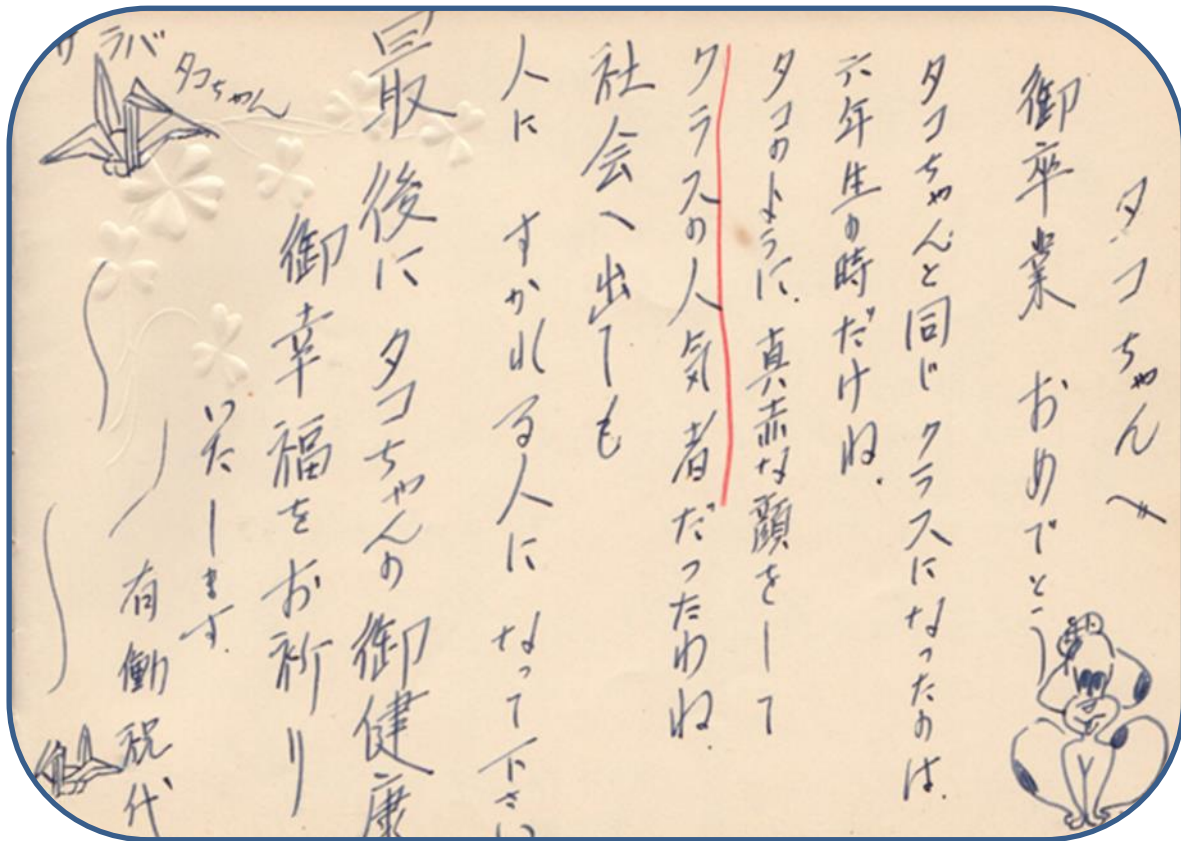
幸福があるように。

Mike
Neko

三ヶ尻登子

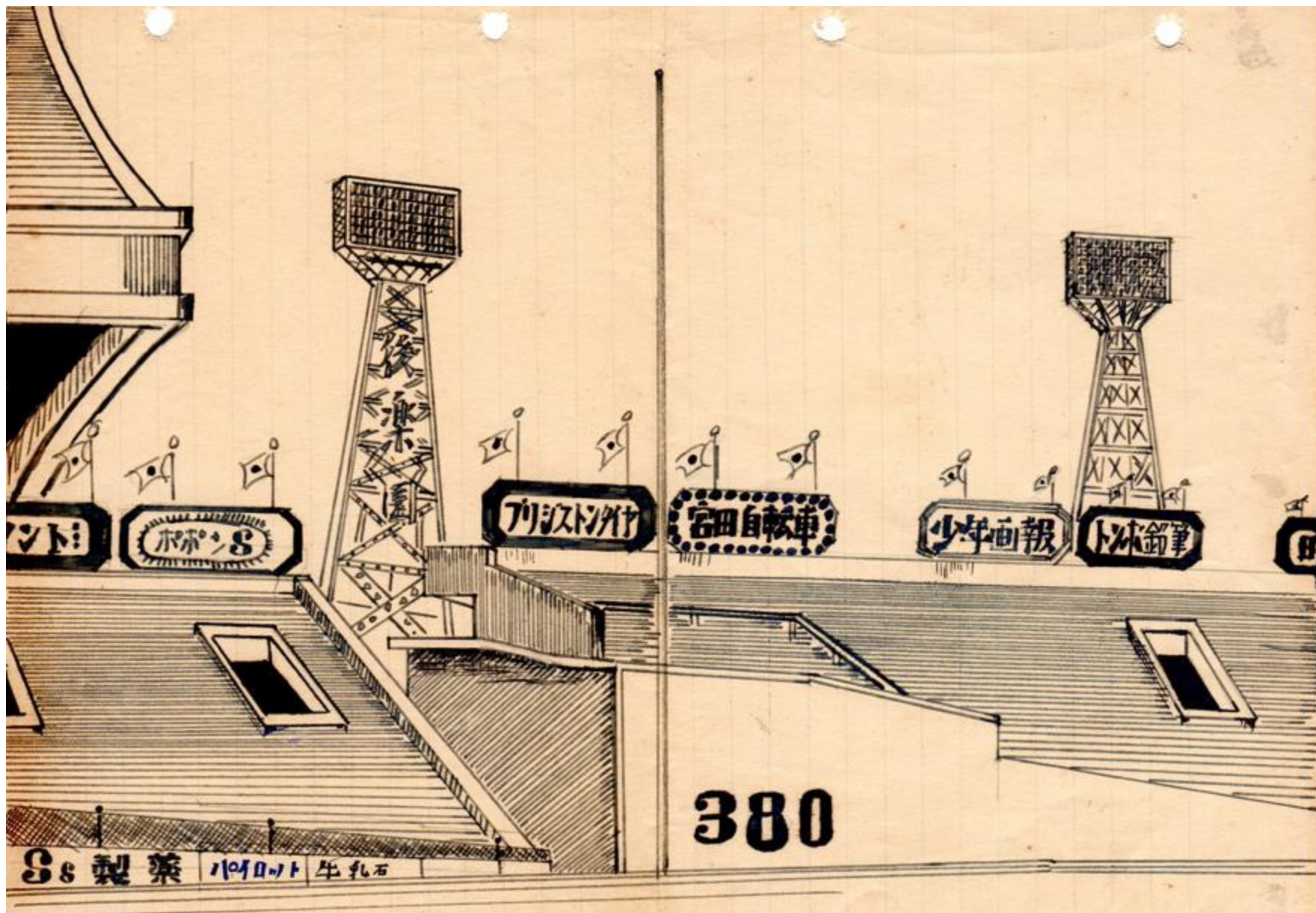
1959年 S.34

中学卒業時 の サイン帳 (友人のことば)



中学卒業時 の サイン帳 (友人のことば)

1959年 S.34



小学校時代 読んでいたマンガに載っていた

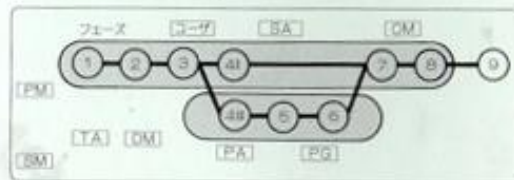
野球場の絵 とても素晴らしく思った 行ってみたいとも思った

それが残っていた

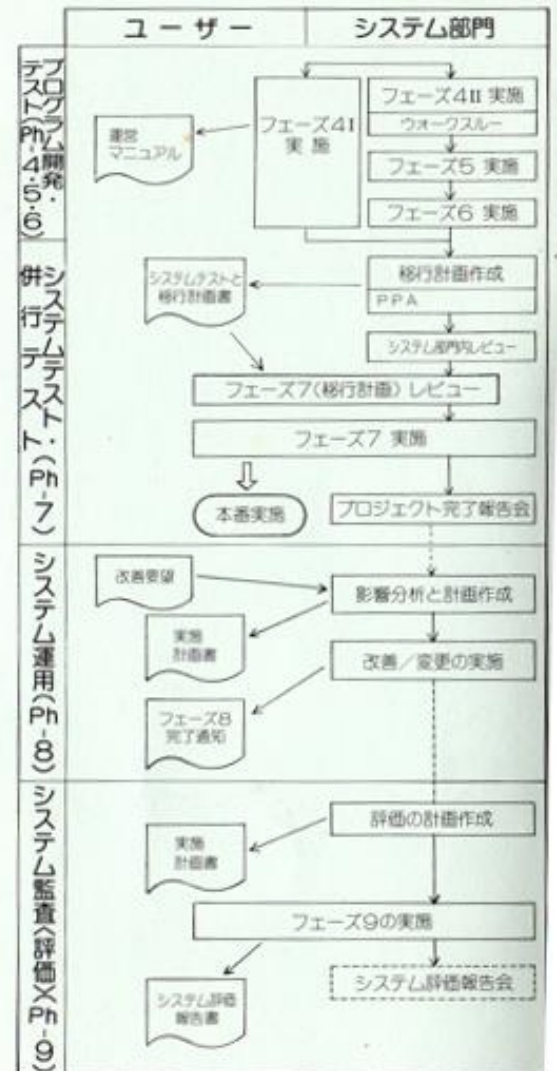
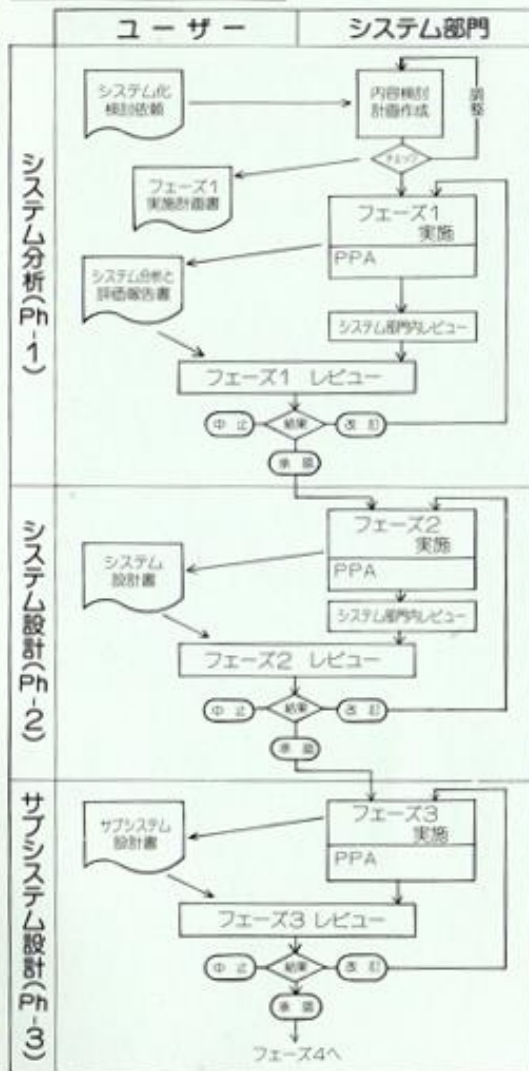
強烈な印象だったので 一生懸命まねをして 描いた

システム開発・維持作業の役割分担

記号	名 称	機 能 及 び 役 割
U	ユ ー ザ ー	要望事項の提示とシステム化内容の確認
UM	ユーザー部門長	要望事項のチェックとシステム化内容の評価、承認
SM	システム部門長	システム開発管理 (設備、要員の調達、配置)
PM	プロジェクト マネジャー (ユーザー、システム)	プロジェクト計画の立案と進捗管理
SA	システム アナリスト (ユーザー、システム)	システムの分析と設計及び システムテスト (フェーズ1、2、3、4と7)
PA	プログラム アナリスト	コンピュータープロセッサの設計と プログラム及テスト仕様書の作成、テ スト結果の確認 (フェーズ4II、6)
PG	プログラマー	プログラミングと単体テスト (フェーズ5)
DM	データマネジャー	DMD (データ管理定義書) の登録、 管理と技術サポート
OM	OPマネジャー	コンピューターシステムの運営面から のチェックと移行サポート
TA	テクニカル アナリスト	データベース設計のチェック、承認と 新設備、新技術を中心とした技術サポ ート

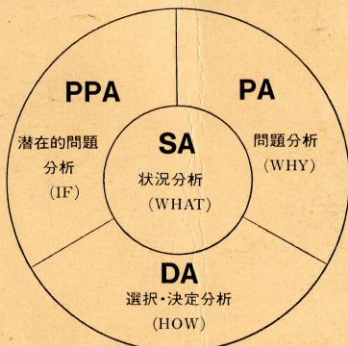


システム開発の手続き



KT法利用マニュアル

KT法四つの思考プロセス概念図



KOBE STEEL LTD., All rights reserved.
Copyright ©1981 Kepner-Tregoe, Inc. All rights reserved.

SA 状況分析 Situation Analysis

- 1. 関心事の列挙**
処理を要すると思われるものを簡潔に記述する。
(注意) ● 思いつまま批判せず
● 必要があれば、前もって取り上げる関心事の範囲を限定してよい。
● 多面的に、多角的になまなましい表現で。
(代表的質問例)
● 具体的にどんなまずいことが起きているか。
● 決定せねばならないことはないか。
● 具体的にどんな不安を感じているか。
● 具体的にどんな良い機会がありそうか。
● 具体的に日程を決めて達成せねばならないことはないか。
- 2. 意味の明確化・分離**
列挙した関心事が、意味が不明 / 多様に意味がとれるものについて意味を明確化する。
また、複数の関心事が混在している場合は処理できる大きさに分離する。
(注意) ● 自分の立場で適切な単位まで
● 出来るだけ事実に基づいて状況を表現する。
(代表的質問例)
● もっと具体的にいつ
● 具体的に何と何のことか。
● たとえば?
- 3. ステートメント化**
明確化、分離後の関心事について、どんな分析をするか簡潔に記述する。
(例) ● 原因分析を必要とする場合……「○○型油

- 圧シヨベル塗装ムラの原因究明」
- 選択決定を必要とする場合……「○○用設備の機種決定」
 - 将来リスクへの対応を必要とする場合……「○○を○○迄に達成する」
- (注意) ● 誰がみても意味がわかるように。
● 簡潔明解に
- 4. 優先順位の設定**
どのステートメントから分析を手がけるかを判定する。
S 重大性 (重大な影響が出ているか、または出そうか)
U 緊急性 (早く手を打つ必要があるか)
G 拡大性・傾向 (放っておくと問題が拡大するか)
(注意) S,U,Gはそれぞれ別個に相対評価をすること。
 - 5. プロセスへの位置付**
分析の方法、シングルアイディアの活用を決める。
差異の原因を究明する PA
選択決定を行う DA
将来予想されるリスクへの対策 PPA
(注意) ● フル・プロセスが常に必要わけではない。
● シングル・アイディアをシャープに使う。
- SA(状況分析)ワークシート

KT法マニュアル 1983年 S.58

PA 問題分析 Problem Analysis

- 1. トラブルの明確化(差異ステートメント)**
トラブルは何か、対象と欠陥を簡潔に記述する。
(例) ○○型油圧シヨベルの塗装ムラの原因究明
(注意) ● Should/Actualは明確か。
● ステアステップはされているか。
● 対象と欠陥は更に分離して考えた方が良いか。
- 2. 情報の明細化**
3W1E, IS/IS NOTを使って情報を整理する。
(注意) ● 推測でなく、事実であること。
● 全ての情報が得られるとは限らない。
● IS NOTはできるだけISに近いこと。
(代表的質問例)
● IS情報への追いつけ質問……“もう少し限定して言えないか”
● IS NOTの質問……“こちらに(IS)に起きるぐらいなら、同じように起きても良いものには起きていないものは何か”
※質問法に忠実であることが肝要
- (1) WHAT**
対象 差異が発生した具体的なもの、部分(人・機械、部品……)
欠陥 不具合点の具体的事象(塗装ムラ、割れ、キズ等)
- (2) WHERE**
場所 不具合点の発生または発見場所(第1組立工場、梱包場……)
対象の部分 欠陥の起った部分。(アーム先端)
- (3) WHEN**
日時 不具合点を発見した日時(年月日時)
状況 不具合点を発見した時の状況

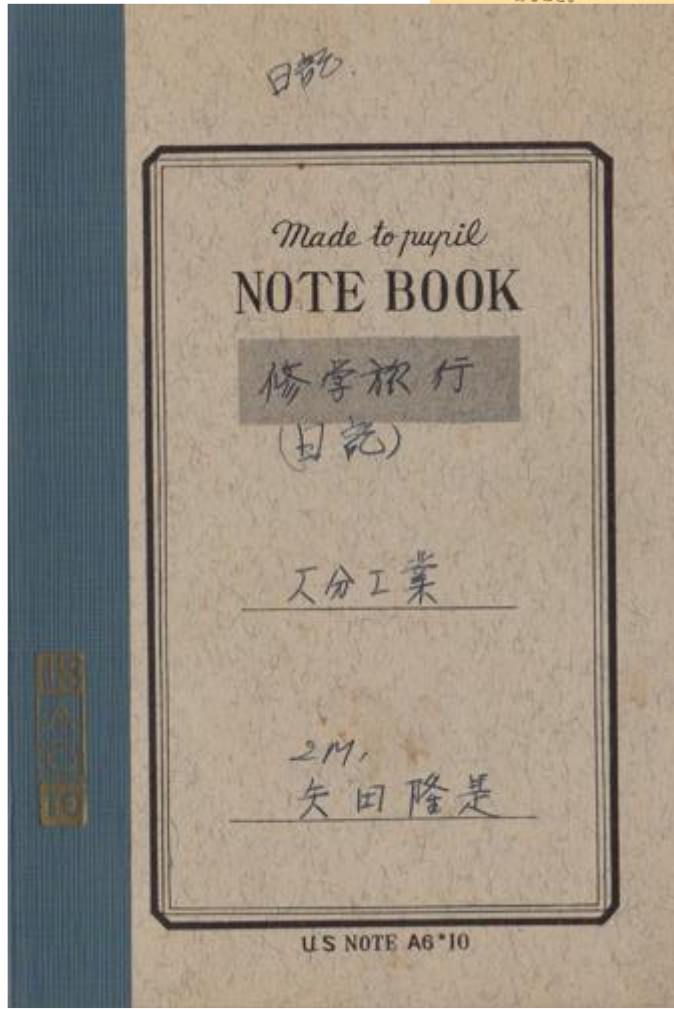
- (出荷検査時、客先納品検査時等)
- (4) EXTENT**
数量 不具合点が発生、発見した数量(件数、%……)
傾向 不具合点の発生は増加傾向か減少傾向か、または突発的か。(過去-現在; 増加傾向、減少傾向、横ばい)
 - (5) IS/IS NOT**
上記(1)~(4)項について事実情報に基づき整理する。
IS……不具合点が発生している状況
IS NOT……IS と似たもので、不具合が発生してもよさそうなのに発生していないもの。
- 3. 区別点**
ISのIS NOTに対する特徴をあげる。
(注意) ● シャープコントラストに有効な区別点がある。
● 抜け落ちはないか。
 - 4. 変化**
区別点に関し、どんな変化があったか。
(注意) ● ISの変化ではなく、区別点の変化である。
● 変化には、それ自体の変化と周辺の変化の双方がある。
 - 5. 原因の想定とテスト**
変化、区別点に着目し、考えられる原因を具体的に列挙する。
想定した原因を一つづつIS/IS NOTに照ら合わせて想定原因の妥当性をチェックする。
(注意) ● テストは真の原因を、ここで出すことでは

なく、どれが最も可能性の高い原因かを見出すことが目的。
● IS/IS NOTを明確に説明しきれないものについては仮説の付帯記述を行う。
(代表的質問例)
● もし、……が原因であるとしたら、ISのみに起きて、IS NOTには起っていないという事実が説明できますか。

- 6. 裏付**
テストで絞り込んだ原因が真の原因かどうか実証する。
● 論理の実証 情報内容の信頼性と想定筋道の確かさを再確認
● 現実の実証 現場観察による確認実施
● 結果の実証 想定原因の試行的除去

PA (問題分析) ワークシート

情報(問題)の明細化 WHAT, IS, IS NOT	区別点	変化	想定原因のテスト			
			区別点の想定	区別点のテスト	区別点のテスト結果	区別点のテスト結果
WHAT ① 対象 ② 欠陥						
WHERE ③ 場所 ④ 対象の部分						
WHEN ⑤ 月・日・時 ⑥ 状況						
EXTENT ⑦ 数量 ⑧ 傾向						
裏付け	実施結果					記録番号



DA 選択決定分析 Decision Analysis

1. 決定事項の明確化(決定ステートメント)
 何の為に、何を決めようとしているかを簡潔に記述する。
 (注意) ● 1目的、1行為に分離されているか。
 ● 前段階の決定とのつながりは明確か。
 ● ステートメントのレベルは適切か。
 ● 誰の立場での決定か。
 (代表的質問例) ● 本当に何をどうしたいのかね。
 (代表的質問例) ● 本当に何をどうしたいのかね。

2. 目標の設定・分類・重みづけ(選択基準の決定)
 (1) この決定で期待したい成果は何か。経費、資源の投入はどの程度にすべきかを思いつくまゝに列挙する。
 (2) 列挙した目標を絶対目標(MUST)と希望目標(WANT)に分類する。
 (3) WANT 目標に10~1のスコアで重みづけを行う。
 (注意) ● 目標の列挙は批判せずに。
 ● MUST目標は必須、計量可能、実現可能であること。

4. 代替案の評価
 ● MUST目標……GO/NO GO
 WANT目標……スコアをつけて比較
 ● MUSTを満足し、WANTを経合的にみて、最もよく達成している案を2~3暫定的に選ぶ。

5. マイナス影響の予想
 選ばれた候補案ごとに、「もし、その案を採用したら何かまずいこと(マイナス影響)が起らないか」を予想し、列挙する。(発生確率 P 重大性 S)
 列挙したマイナス影響に手を打って防止できるか否かを評価する。
 (注意) ● かりうじてMUST目標を満足しているものは大丈夫か。
 ● 重みづけの高いWANT目標のスコアが低い場合、何かまずいことはないか。
 ● 次について何かまずいことはないか。
 人・組織・外部の影響力

6. 最終選択
 最も均衡のとれた案を選択する。

DA (決定分析) ワークシート(1) 決定ステートメント

項目	内容	項目	内容
決定事項(ステートメント)		決定	
目的		目的	
目的達成の条件		目的達成の条件	
目的達成の期限		目的達成の期限	
目的達成の責任		目的達成の責任	
目的達成の予算		目的達成の予算	
目的達成のリスク		目的達成のリスク	
目的達成の利益		目的達成の利益	
目的達成の損失		目的達成の損失	
目的達成のその他の事項		目的達成のその他の事項	

DA (決定分析) ワークシート(2)

項目	内容	項目	内容
決定事項(ステートメント)		決定	
目的		目的	
目的達成の条件		目的達成の条件	
目的達成の期限		目的達成の期限	
目的達成の責任		目的達成の責任	
目的達成の予算		目的達成の予算	
目的達成のリスク		目的達成のリスク	
目的達成の利益		目的達成の利益	
目的達成の損失		目的達成の損失	
目的達成のその他の事項		目的達成のその他の事項	

PPA 潜在的な問題分析 Potential Problem Analysis

決定された事項や、既に進行中の計画を、目標通り達成するため、将来起り得るリスクへの対策を準備する。

1. 達成事項の明確化 (実施計画ステートメント)
 「何をいつまでにどうするか」を簡潔に記述する。
 (注意) このステートメントは、自分の立場から考え、大きくすぎないか、小さくすぎないか。

2. 実施計画の作成 / 重大領域の確認
 ● 期日通りに目標を達成するためには、どのようなスケジュールで実施すればよいか。
 ● スケジュールの中で最も危険なエリアは何か。
 (注意) ● 複雑に部門がからむところはないか。
 ● 全く経験のないところはないか。
 ● 責任があいまいなところはないか。
 ● 失敗の影響が致命的なところはどこか。

3. 潜在的な問題の想定 / リスクの評価
 ● この重大な領域で問題が起きるとすれば、どんな問題が考えられるか。
 ● 潜在的な問題の起こる可能性(P)、起きた場合の重大性(S)を評価し、手を打つべき問題を明確にする。
 (注意) ● 想定に関して誰の知識や経験を活用すれば更に精度が高まるか。
 ● IF-THENで記述する。

4. 発生原因の想定と予防対策
 ● 各々の潜在的な問題について、それが起きるとすればどんな原因によって起るか、考えられる原因をあげる。

● 原因の中で、潜在的な問題を引き起す可能性の高いものについて、原因そのものの発生を除去する予防対策を考える。
 (注意) ● 予防対策は具体的な行動が明確になるよう記述する。
 ● 発生原因の想定にはステアステップを活用する。
 ● 予防対策がない場合もある。

5. 緊急時対応策
 潜在的な問題が起きてしまった場合を考え、その計画に対する悪影響を最小化する為の対策を準備する。
 (注意) ● 緊急時対応策はあらかじめ準備されていないといけない。
 ● 具体的な行動が明確になるよう記述されねばならない。

6. 情報網の整備
 ● 進捗報告
 ● スケジュールのどの段階で進捗状況の報告を得たいか。
 ● 緊急時対応策の発効のトリガー情報は、
 ● 発効責任者は、情報の伝え方は、
 ● また、各対策のOFFのための情報は。

PPA (潜在的な問題分析) ワークシート 実施計画ステートメント

項目	内容	項目	内容
実施計画のステータス		実施計画	
実施計画の開始日		実施計画の終了日	
実施計画の責任者		実施計画のリスク	
実施計画の予算		実施計画の利益	
実施計画の損失		実施計画のその他の事項	

十月二十一日

別荘までバスで別荘駅発十^五時五十四分の下り列車に乗り
 大分を降りた。あきりまた来ていた。しかし時間がたつに
 ついてぞくぞくと集まってきた。五時に集合して六時三
 十分頃出発した。汽車を出発してすぐ又食をした。

急行(日向)なので小まな駅には停車しない。尾川駅を
 通過する時はもう大分暗くなっていた。大田・赤川・鶴原と僕
 の四人が同じボックスにすわっていた。外の景色が見えないので
 果物や菓子・等々——食べながら話したり笑ったり
 トランプしたりした。汽車は杵築木・早良・中津とだんだん
 進み福岡県に入った。小倉に着いたのが八時三十分で下関着
 が十時頃。頂度一本世にはよほど大である。明日の早か気に
 なるので眠る事にした。かたかく眠れなかった。しかし徳山あ
 りかつおおくねったのでねあつて大里右から玄島で起された
 玄島に着いたのが十二時五十分頃だった。

十月三十一日

深夜のホームは静かだった。店の人と物売りの人達が
 起きているのが目立つのどかかわったのでビールを買った。

ホームに一度下りに。列車は山陽本線に乗へくと目くら
 岡山を過ぎ姫路に着いた。そのままだはぐすり眠った。
 そこで全頁紙を買った。又汽車はそこで電気枕用車
 にまりのえた。食事後、大日の夜同様、トランプしたり話

今とよんたりーに 明石 神戸 三ノ宮を過ぎ大坂に至り
た。ここでは踏切ばかりで如く之を体交又だった。

朝の風を切って進む列車の窓から大都會大阪の町を
見るのは何ともしよえぬ一言さをも成心した。

大坂を後にして汽車は 四十分後終着駅京都に着いた
たのむかへ時五十分頃 駅前で呉峠をとり旅館にた

旅館は駅からすぐ近くの飯田屋と云うことだ。荷物を置
てカメラを持って又駅前には集合して。時間があったので

写真とラフした。九時頃から京都見学をした。東本願寺
に本願寺下り ~~西本願寺~~ 規模の大きさには驚いた。

平安神宮、金閣寺、御所、二条城など見学をした。
午後は比叡山に行った。ここは日本一のドライブコースと云

わい大変景色が良く下には琵琶湖も見える。ま
もある。二ノ宮の総本山と浄土と見学をした。

ここでも写真とラフをとった。もとの真下と下って下
旅館に付き午後半の夜自由行動だったから。ゆめもつら

買物をした。旅行に付き物収め投合いとした後
(十時頃) 眠りについたがなかなかいねかかった

一ヶ月のあはれは大きかった。

月二二日

之勝超市にて府道朝倉にて時三十分東京行臨時
列車で東京に向った。他の学校の生徒も一緒だった。
琵琶湖。と後にして東海道本線と逢った。

時速九十キロ位のスピードで走っているのだから早く
早い。そしてこの汽車。と離合の際の音と相對速度は
目と因くする程に。各各は。静岡等とすきた。

丹波の富士山が遠くに見えて来た時は初めて日本
人である事を自覚した。しかし後になってそのりんかく
は明瞭にならなかつた。曇ってしまふ。空気がよみかた
のかとにくく。まはすまきこなかつた。

熱海の至るくさは驚きいた。ホテルばかりで本々に温泉
前市の風格をさげえさる。合まで丹那トニネルヤ。
木曾川。大倉川。富士川等大きは川を渡った。

大倉川がよかつた。木曾川のごときは川のIPが六百人
トンはあるのだからそのまじ。丹那トニネルは入って

あるまじ。合三十分かかた。大船を過ぎ横浜。品川
と出てみあかしの東京駅にいた。東京の夜はオオには
目と因くする程だ。とにかく口では長わせば。後す。は

うー。い。ネ。オ。東京駅から上野駅までの最初の夜
寝までんすと寝た。まくれた。床をのいん。静。き。その。え。

